

2021 年度 日本造園学会全国大会案内

2021 年 5 月 21 日（金）～23 日（日）

造園学会 2021 年度全国大会 宮城 2021 特設サイト
(特設サイト 閲覧期間 2021 年 5 月 21 日（金）～30 日（日）)

公益社団法人 日本造園学会

2021 年度日本造園学会の開催にあたって



日本造園学会会長：柴田 昌三

2021 年度の日本造園学会全国大会にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、今年度の全国大会もオンラインによる大会開催となりました。直前までハイブリッド形式での開催を模索しておりましたが、大会の二週間前の段階でも変異株ウィルスによるコロナの蔓延が止まらないことから、完全オンラインに一本化して開催するという判断を下さざるを得なくなりました。学会員の皆さまには、直前まではっきりとした開催方法の通知ができませんでしたことをお詫び申し上げます。昨年度の挨拶でも書きましたが、日本造園学会は本来、膝をつき合わせ、対面で議論を交わしてこそその学会であると信じています。二年連続してその機会を作れなかったことが残念でなりません。

コロナ禍が始まって以降のこの一年半の間に、世界の生活は大きく変容しました。その中で、世界中の人々は憩いの場、あるいはリフレッシュの空間として、近くにある公園や緑地を訪れるようになりました。実際に、国内の公園利用は最初の非常事態宣言中から増加しています。その傾向はより身近な公園で顕著であり、さまざまなイベントや仕掛けではなく、単純に緑があるゆとりのある空間が、近隣に生活する人々によって強く求められるようになっていくことがわかります。この欲求は今後も増加し続けると考えられます。歴史的に見て、都市域の公園に根源的に求められてきたこのような需要が今、改めて認識されるようになっていくのです。そこでは、近年公園に求められるようになってきた経営効率ではなく、緑の量、さらには質が求められるようになっていきます。リラックスできる空間の創出、維持管理のための技術、技能は私たちがすでに長い時間をかけて培ってきたものです。原点に立ち返ってそれらを改めて考えることは重要であり、今の社会が最も求めていることを考察することは必要不可欠です。

このような理想像を求めるための対話は、何度も繰り返される経験に基づく議論、さらには現場での検証によって行われる必要があります。今回の全国大会は少しでもそのような機会を創出できることを念願しておりましたが、この機会は、必ず対面で実現できるであろう、来年度の全国大会までお預けとなります。一方、これからの一年の間にも、日本中、あるいは世界中で造園学会の皆さんが対峙する空間に対する人々の視線はますます熱くなると考えられます。関係者の皆さんの知見の蓄積をお願いしたいと思います。

一方、今年は東北大震災10年目にあたります。この10年間で今年検証することが、積極的に震災復興に取り組んできた本学会にとって重要な節目となっています。日本造園学会が連

綿と続けてきた震災復興の実態を実際に目にさせていただくことは、まもなく創立100周年を迎える学会にとって不可欠だと考えています。本来であれば、過去10年間の検証を仙台で行い、さらにその先を直接議論する場を設けたかったのですが、これについては後日配信される予定となっております録画等によってご確認をいただき、改めていろいろとお考えいただければ、と思います。

最後に、このような状況の中で、全国大会の準備に尽力いただきました、関東支部、関東支部とともに東北での開催に積極的に協力いただきました東北支部、大会実現に尽力いただいた企画委員会、研究発表会等のオンラインでの実施に向けてさまざまなアイデアを出していただいた学術委員会、総務委員会や編集委員会等々、数多くの皆さまのご努力に心から感謝申し上げます。

このような書面での挨拶はコロナ禍の前の全国大会にはありませんでした。直接メッセージをお送りできなくなったことから、昨年度からはじめさせていただきましたが、来年度はこのようなことをすることなく、全国大会会場で直接皆さまと交流ができる日が来ることを祈念してこの挨拶を終わりたいと思います。

会員の皆さま、不自由さは伴いますが、今回も存分に知識を吸収し、情報を交換していただきたいと思います。活発な交流を期待しております。

柴田昌三

2021 年度日本造園学会全国大会案内

大会テーマ：Think Global. Act Local 3.11 ポスト 10 年 自然に向き合うランドスケープ

■大会開催方法

既に報道されております通り、新型コロナウイルス感染症が昨年以上に強い感染力を持ち、日本各地で猛威を振るっていることや年齢層に関わらず重症化のリスクが非常に高い現状を鑑み、全国大会の現地開催は全て断念し、完全オンライン開催となりました。直前の変更となり恐縮ですが、ご理解とご協力のほど、何卒宜しくお願い致します。

■開催場所

現地での開催はございません。全てオンライン上での開催となります。

全国大会特設ページ； <https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/>

■参加申込方法

会員・非会員の別を問わず、事前申込・決済制を導入しています。必ず事前に、下記の URL にて参加申し込みを行ってください。受付期間は 2021 年 4 月 19 日(月)～5 月 19 日(水)13 時です。

大会コンテンツの閲覧に必要なパスワードは、5 月 21 日（金）午前中にメールで通知予定です。

事前申込登録フォーム（Peatix）：<https://peatix.com/event/1865331>

■大会参加費

会員・一般 6,000 円 非会員・一般 7,000 円 学生 2,000 円

■大会に関するお問い合わせ

〒 150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-11 造園会館 6 階

（公社）日本造園学会事務局

Tel: 03-5459-0515 Fax: 03-5459-0516

E-mail: office[atmark]jila-zouen.org

■大会スケジュール

本全国大会特設ページの閲覧期間は、2021年5月21日(金)～5月30日(日)を予定しています。
開催プログラムの詳しい情報は、随時、特設ページで更新しておりますのでご覧ください。

全国大会の概要； <https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/>造園学会 2021 年度全国大会

日時		内容	実施方法					
			ライブ中継		録画配信		一般公開	
5月21日 (金)	13:30～17:00	学生公開デザインコンペ 二次公開審査	○	審査の様子をライブ中継します	○	審査終了後、ライブ中継の録画映像を配信します	○	
5月22日 (土)	9:30～11:00	総会	○	Web会議方式での参加、又は委任状のご提出をお願いします。（会場への直接参集は、理事等のみといたします。）	×	—	×	
	11:10～12:50	学生コンペ入賞者表彰式 日本造園学会賞等表彰式 受賞者講演会	○	Zoom Webinarを用いてオンライン形式で表彰式・受賞者講演を実施します。	×	—	×	
	13:30～16:30	シンポジウム	○	シンポジウムの様子をライブ中継します。チャット等のシステムを用いて質疑応答等も受け付けます（予定）。	○	シンポジウム終了後、ライブ中継の録画映像を配信します。質疑等の受付はしません。	検討中	
5月23日 (日)	9:30～14:40	研究発表会	○	研究発表会の中で質疑応答も行う双方向型の実施となります。	×	—	×	
	15:00～16:30	ミニフォーラム 1	○	ライブ中継	○ *2	録画配信	×	
	16:40～18:10	ミニフォーラム 2	*1				×	
5月21日（金）午前～ 5月30日（日）午後 ＊詳細時間未定	内容		大会期間中常時閲覧可					×
	ポスターセッション		大会参加者は、閲覧期間中（5月21日（金）午前～5月30日（日）午後）、特設サイトににて常時閲覧できます。「エクスカーション見学先紹介」は、今回予定したエクスカーションの見学先を撮影したものです。					×
	企画展示							×
	エクスカーション見学先紹介							×

*1・*2 ミニフォーラムは、企画によって実施方法（ライブ中継・録画配信）が異なります。詳しくは特設サイトのプログラムでご確認ください

■開催プログラムの概要

開催プログラム		開催期間	概要	
①	総会	22 日 (土) 9:30～ 11:00	総会までの スケジュール	予め総会次第をご確認のうえ、ご意見・ご質問がある場合は、2021 年 5 月 20 日（木）までに学会事務局へメール(office@jila-zouen.org) または書面にてご連絡ください。
			実施方法	造園会館 8 階緑の会議室および Web 会議方式※ ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、造園会館での出席者は役員および事務職員等の関係者のみに限らせていただきます。会員の皆様におかれましては、Web 会議でのご出席または委任状のご提出をお願いいたします。 Web 会議の URL やパスワード等は、出席のご回答をいただいた方にご連絡します。
②	学生コンペ入賞者・日本造園学会賞等表彰式、受賞者講演会	22 日 (土) 11:10～ 12:40	実施方法	Zoom Webinar を用いてオンライン形式で表彰式・受賞者講演を実施します。公開期間終了(5/30(日))後には本学会 HP の学会賞ページに情報公開を追記するほか、ランドスケープ研究で下記の通り、選考結果等を掲載します。 ＜ランドスケープ研究記載予定記事＞ ・選考結果：全受賞者 ・業績要旨：日本造園学会賞 受賞者 ・インタビュー：上原敬二賞 受賞者
③	研究発表	23 日 (日) 9:30～ 14:40	実施方法	研究発表会は、Zoom を用いたライブ中継を行います。研究発表会の中で質疑応答もおこなう双方向型の実施となります。[トップページ]－[プログラム]－[研究発表会]に今回行われる発表のリストを掲載します。 1. 各発表の Zoom アクセス方法は、各セッション「タイトル」からのリンク先で確認※できます。(※「リンク先」「ウェビナーID」「パスコード」) 2. 各セッションへの入室・退出は自由です。 3. 各論文の PDF は、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。 ランドスケープ研究 84 巻 5 号研究発表論文集刊行 (https://www.jila-zouen.org/publication/11819) 「Zoom」について ・ 「Zoom」が利用できることを前提としており、インストール、利用方法など、「Zoo

				m] についてのサポートは申し訳ございませんが行っておりません。「Zoom」の利用については、ご自身で事前にご確認ください。 「Zoom」は事前にインストールしておくことをお勧めいたします。利用方法参照 「質問」は、Zoomの「チャット」をご利用ください。座長が口頭での質問を了解した場合は、マイクのミュートを解除して、お話しください。 - 各セッションの画面・音声の再配布は、著作権などに関わるため認めていません。録画・録音はご遠慮ください。 - 主催者側のトラブルで「Zoom」がシャットダウンした場合など、急ぎ復旧いたしますので、そのままお待ちいただくか、再入出をお願いいたします。
④	ポスターセッション	21 日(金) ～ 30 日(日)	実施方法	ポスターセッションは、特設ページでの公開により、発表したものとなります。特設ページの [トップページ] – [プログラム] – [ポスターセッション] に今回出展されるポスターのリストを掲載します。この一覧から各ポスターのページにアクセスできます。 5 月 21 日(金) ～30 日(日) の間、参加者の皆様からのコメントを受け付けます。 各ポスターのページには、 ① 要旨 ② ポスターpdf ③ 発表者へのコメント入力欄および返信表示欄があります。ポスターを見て質問や感想があれば、コメント入力欄から投稿してください。 *①～③の閲覧やコメントの書き込みには、大会参加登録後に発行されるパスワードによるログインが必要です。
⑤	シンポジウム	22 日 (土) 13:30～ 16:30	実施方法	Zoom を用いたライブ中継を行います。ライブ中継の参加者は大会参加申込者に限ります。システムの制限のため、参加者は先着 1000 名です。また、シンポジウムは録画配信予定です。 【詳細】 シンポジウムテーマ「Think Global. Act Local 3.11 ポスト 10 年 自然に向き合うランドスケープ」

				(1) 日時 2021 年 5 月 22 日 (土) 13:30 ~16:30 (2) 内容 COVID-19 の影響で社会の価値観や暮らし方に大きな変革のあった 2020 年。振り返れば、都市施設としての「Park」の誕生も、産業革命による都市環境の悪化に伴う伝染病の蔓延など心身の健康を損なったことから始まり、このような大きな決断は結果的には、緑豊かで魅力的な都市として現在の地域を支える資産となっている。 大会開催年である 2021 年は、東日本大震災から 10 年になる。地震大国・島国日本において、地震や津波などの自然災害を想定した暮らしと空間づくりは必要不可欠である。震災後に造園学会として開催した緊急集会のシンポジウムにおいてご講演いただいた白幡洋三郎先生は、「人のいるところでの自然の力は災害になるが、いないところでは景勝地になる」といった主旨のお話を語っていた。つまり、機能だけでの地域づくりでなく、それを風景として受け止めていくことが暮らしの糧にもなるとの示唆と理解することができる。 近年、自然災害は日本だけではなく、特に近年の地球規模での気象変動が起こる中、豪雨、豪雪、干ばつ、山林火災、海面上昇、そして地球の本来のエネルギーである地殻変動や噴火など、自然の力の大きな変化を想定した日々の暮らしの地域づくりが求められており、そして、そうした地域づくりに貢献できる職能としての造園家はますます重要になってきている。日本造園学会は、1923 年の関東大震災を機に上原敬二先生によって、街の復興に貢献する技術者の育成と研究の必要性から設立された。それから間もなく 100 年を迎えようとしている中で造園の職能も多岐にわたるようになり、ここにあらためて民産官学の連携を強めることで総合性と専門性をより一層高めていく礎の年として、この 10 年の取り組みを共有し、全体としての方向性だけでなく、それぞれの分野における道筋をみつけだすきっかけにできればと思う。 1. 開会挨拶 柴田昌三（造園学会会長・京都大学大学院地球環境学堂教授）
--	--	--	--	---

				2. キーノートスピーチ（基調講演） 「世界規模における社会的大変容とランドスケープアーキテクト」 涌井雅之（東京都市大学環境学部 特別教授／石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会委員長） 3. パネルスピーチ（話題提供） 「復興に向けた政策：新たな国立公園とロングトレイル」 渡邊綱男（（一財）自然環境研究センター 上級研究員） 「原子力災害と再生の景観：旧避難指示区域へのトレイルのデザイン」 小沢晴司（宮城大学） 「津波被害を後世につなぐ拠点整備：高田松原復興祈念公園での風景づくり」 池邊このみ（千葉大学） 「グリーンインフラを活かした地域の再デザイン」 福岡孝則（東京農業大学） 「新たな風景と産業の創出～被災地での東北コトンプロジェクト、リボーンアート・フェスティバル」 江良慶介（一般社団法人 AP バンク／株式会社 KURKKU 代表取締役社長） 4. 休憩 5. パネルディスカッション（討論） コーディネーター：蓑茂寿太郎（一般財団法人公園財団 理事長） パネラー：渡邊綱男、小沢晴司、池邊このみ、福岡孝則、江良慶介 6. 将来に向けて 柴田昌三（造園学会会長・京都大学大学院地球環境学堂教授） 7. 閉会挨拶 岡本一郎（造園学会東北支部長・仙台市建設局理事） 総合司会： 近藤夏実（仙台市建設局百年の杜推進部公園課） 注）Web を用いたライブ中継は、画質・音声・通信安定性が不安定になることが予想されますこと、予めご了承ください。
⑥	ミニフォーラム・研究推進委員会フォーラム	23 日(日) 15:00～ 18:10	実施方法	ミニフォーラムは、ZoomやCisco Webex meeting などを用いて開催します。特設ページの［トップページ］－［プログラム］－［ミニフォーラム］から各ミニフォーラムのページへアクセスできます。ミニ

				フォーラムによって開催方式が異なるため、詳細は各ミニフォーラムのページでご確認ください。 以下 11 件のミニフォーラム・研究推進委員会フォーラムを開催予定です。これらのフォーラムは、造園関連諸団体（公益団体や企業団体）、地域の市民活動団体等との連携を図り、時節において重要かつ話題性に富んだ事項について自由に議論する場として設けたものです。会員諸氏をはじめ多くの皆様のご参加を期待しています。 <u>ミニフォーラム 5 月 23 日（日）15:00～16:30 開催</u> ・ 庭園がつなぐ名勝地と文化的景観 ・ 「林苑計画書」から読み解く明治神宮一〇〇年の森 ・ 造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～ ・ 校庭園庭環境の自然空間創出と専門家の役割、育成 ・ 都市公園の遊び場をインクルーシブに ・ 自然と共生する地域づくりと次期生物多様性国家戦略 <u>ミニフォーラム 5 月 23 日（日）16:40～18:10 開催</u> ・ 文化財庭園都市と自然との共生～潮入りから考える～ ・ 日本庭園の「わざ」一石の運搬と据え付けに関する伝承造園技術の検証 ・ 街の価値を高める街路空間と街路樹マネジメント その 2 <u>研究推進委員会フォーラム 5 月 23 日（日）16:40～18:10 開催</u> ・ これからの風景 多様な体験や価値付けの共有 ・ 生きものの主体の庭（空間）づくりの理論と技術
⑦	企画展示	21 日(金) ～ 30 日(日)	実施方法	特設ページの「トップページ」－「プログラム」－「企画展示」から、企画展示のページへアクセスできます。企画展示のページ内にある、ご出展いただいた企業・団体の名称をクリックすると、ポスター（ポスター出展）や各企業のホームページ等（URL リンク出展）を見ることができます。

⑧	学生公開 デザインコンペ	21 日(金) ～ 30 日(日)	実施方法	応募作品の受付は、4 月 30 日(金)～ 5 月 7 日(金)必着です。5 月 9 日(日)の第一次審査を踏まえて、5 月 21 日(金)の第二次審査(最終プレゼンテーション、公開形式)をオンライン形式で実施します。表彰式は、5 月 22 日(土) 11:40～12:40 に Zoom Webinar を用いてオンライン形式で行います。 <応募作品の受付> ・ A1 (用紙 2 枚まで自由にレイアウト) 横長方向で使用し、縦 2 枚並び。5mm 程度の厚さのパネルに貼って提出してください。パネルにフレームを付けないでください。すべてのパネル裏面右上隅に「登録番号」(サイズ 5cm × 5cm)を記載してください。送料は応募者負担となります。 ・ PDF データ アップロードサービスを使用して送付してください。データは PDF 形式、High Quality で作成してください。 <第二次審査のプレゼンテーション実施方法> ・ 一次審査の結果は、応募者全員に登録されたメールアドレスへ通知します。一次審査で選ばれたチームの方は、公開プレゼンテーション用 PowerPoint を事前に事務局までメール送付してください。審査日は 5 月 21 日(金)の予定です。二次審査では提出済みパネルに加え、模型や PowerPoint による追加説明資料を認めます(追加のパネルは認めません)。 ・ 一次審査で通過された作品の応募者には、5 月 21 日(金)に開催する公開プレゼンテーションにおいて応募者本人による提案内容のプレゼンテーションをしていただき、審査委員との質疑応答の機会を設けます(発表 5 分、質疑応答 10 分)。審査委員会は、一次審査通過作品のプレゼンテーションならびに質疑応答を参考に、最優秀賞等の選考を行います。 ・ 二次審査の結果は、5 月 21 日(金)の審査会後に内示します。5 月 22 日(土)の表彰式において正式に発表、表彰されますので、必ず参加してください。
⑨	エクスカーション	21 日(金) ～ 30 日(日)	実施方法	2021 年度日本造園学会全国大会では、東日本大震災から 10 年が経過し、当時、この地で起こった出来事を振り返るとともに、その後の復興の軌跡と現状を視察することで、近年多発する自然災害を軽減し、

				暮らしの風景を育てていくことを考える見学会を 2021 年 5 月 21 日（金）に予定していましたが、感 染症拡大防止のため、下記の内容に変更しました。 ・ 今回予定していた見学先を撮影し、編集した動 画「エクスカーション見学先紹介」（予定）
--	--	--	--	---

学生公開デザインコンペ

■デザインコンペ課題

Millennium Memorial Place ～風景として継承する災害の記憶

■スケジュール

- 1) 登録期間 2021 年 2 月 1 日 (月) ～ 4 月 16 日 (金) 17:00
- 2) 作品の受付 2021 年 4 月 30 日 (金) ～ 5 月 7 日 (金) (必着)
- 3) 一次審査会 2021 年 5 月 9 日 (日)
- 4) 二次審査会 2021 年 5 月 21 日 (金)
審査の様子をライブ中継し、審査終了後、中継の録画映像を配信します。
- 5) 審査結果発表・表彰式 2021 年 5 月 22 日 (土) 11:40～12:40
Zoom Webinar を用いてオンライン形式で表彰式・受賞者講演を実施します。
<https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/プログラム/日本造園学会賞-受賞者講演会>

■表彰の内容

- 最優秀賞 (1 点) 賞状、賞金 (5 万円)
- 優秀賞 (2 点) 賞状、賞金 (2 万円)
- 佳作 (7 点程度) 賞状、賞金 (1 万円)

■審査委員会

審査委員長:

宮城 俊作 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授／ PLACEMEDIA

審査委員:

武田 史朗 千葉大学大学院園芸学研究院教授

乾 久美子 乾久美子建築設計事務所／横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授

平岡 善浩 宮城大学事業構想学群教授

槻橋 修 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授

赤坂 憲雄 学習院大学文学部日本語日本文学科教授

主催: 公益社団法人日本造園学会

共催: 全国都市公園整備推進協議会

後援: (一社) ランドスケープコンサルタンツ協会 東北支部

協賛: 一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟 (JLAU)、株式会社虹設計事務所、株式会社
東京ランドスケープ研究所、西武造園株式会社、株式会社ライフ計画事務所、Ciels-Paysages



Millennium Memorial Place

風景として継承する災害の記憶

「その場の出来事の記憶」
を「記憶の宿る風景」へ

2011 年の東日本大震災の津波被災地にある鉄道沿線地域を対象とし、被災地が再び「自然」に移り変わる再野生化のプロセスの中でも、千年スケールの時間軸を想定し、その記憶を地域の生業・生活とも直結する文化的景観として継承しうるメモリアルプレイスの空間形態とその変容に着目したランドスケープデザインの提案を求めます。

JILA National Convention Student Landscape Design Competition 2021

2021 年度日本造園学会全国大会
学生公開デザインコンペティション



嵩上げ工事が進む気仙沼市本吉町津谷川河口付近 (2019.03)



本吉町赤牛漁港付近 (2019.03)



再野生化が進行する JR 気仙沼線跡と沿岸地域 (2019.03)

21 世紀に入り 20 年が経過しようとし、その期間に地殻変動の活性化による大震災、地球規模の温暖化の影響による豪雨等の自然災害が頻発しています。これら災害の記憶を 21 世紀初頭の私たちの経験として次の世紀以降まで継承するような場のデザインとその風景とはどのようなものでしょうか？

2011 年の東日本大震災の被災地の沿岸市街地では、流されてきた大きな船、なぎ倒された海岸林など多くの震災遺構は撤去され、街全体が嵩上げされています。その場で起こった出来事は写真・映像記録として保存されて、祈念施設やモニュメントにより知ることができますが、その場に宿る記憶を想起させる風景はそこにはありません。一方で、沿岸部の低平地の湿地化の進行や廃線となった鉄道の遺構である土手や高架が残されたまま、草木で線路が覆われていく姿が私たちに「負の記憶」を思い起こさせることもあり、そのありのままの風景も折りの対象ともなりえます。金継ぎ茶碗のように、傷ついた大地とその再生プロセスを残しつつ、地域間をつなぎ止める媒体として捉え直すことで「その場の出来事の記憶」を「記憶の宿る風景」として継承することの意義が見いだせるのかもしれません。

本デザインコンペでは、2011 年の東日本大震災の津波被災地にある鉄道沿線地域を対象とし、被災地が再び「自然」に移り変わる再野生化のプロセスの中でも、千年スケールの時間軸を想定し、その記憶を地域の生業・生活とも直結する文化的景観として継承しうるメモリアルプレイスの空間形態とその変容に着目したランドスケープデザインの提案を求めます。

学生の皆様のチャレンジを期待しています。

応募条件

- 1) 応募資格は高校生、専門学校生、短大生、大学生、大学院生の個人またはグループとします。登録時に学生であれば応募時(作品提出時)に社会人でもかまいません。なお、高校生は一次審査のみとし、一次審査終了後、入賞者に連絡します。
- 2) グループの応募は 5 名以内とし、グループの場合は代表者を 1 名選定していただきます。
- 3) 専門分野は問いません(ランドスケープ、都市計画、土木、建築、デザイン等)。
- 4) パネルは日本語または英語、プレゼンテーションは日本語とします。英語のみを使用する者が応募する場合は、日本語によるプレゼンテーション(質疑応答を含む)が可能な者と組んで、グループで応募してください。
- 5) 仙台メディアテークで行われる令和 3 年 5 月 21 日(金)の二次審査会(公開プレゼンテーション)と、東北工業大学で行われる 5 月 22 日(土)の表彰式への参加が必須です。グループによる応募の場合は、二次審査会および表彰式への全員の参加に努めてください。
- 6) 応募作品は未公表でオリジナルなものに限ります。アイデアや表現などにおける他者の作品との極端な類似が見られるなど、作品のオリジナリティが疑われる場合は、その作品を失格とする場合があります。

対象地

廃止された JR 気仙沼線(柳津駅～気仙沼駅間)の沿線地域の鉄道跡が残存するエリアの内、気仙沼市本吉町内の大沢、小金沢、赤牛、谷地、前浜、田の沢、日門、九多丸、三島(大谷海岸)から自由に設定してください。くれぐれも橋りょう等を含む鉄道設備、また、BRT 専用道含む敷地・施設には立ち入らないようお願いいたします。

提出物

- 一次審査用提出物：A1 サイズパネルと PDF データ
A1 (594×841 mm) 用紙 2 枚まで自由にレイアウト。横長方向で使用し、縦 2 枚並び。5 mm 程度の厚さのパネルに貼って提出してください。パネルにフレームを付けないでください。
すべてのパネル裏面右上隅に「登録番号」(サイズ 5 cm×5 cm)を記載してください。
二次審査用提出物は募集要項を参照のこと。

スケジュール

- 1) 登録期間
2021 年 2 月 1 日(月)～4 月 16 日(金) 17 時
- 2) 作品の受付
2021 年 4 月 30 日(金)～5 月 7 日(金)(必着)
- 3) 一次審査会 2021 年 5 月 9 日(日)
- 4) 二次審査会 2021 年 5 月 21 日(金)
@せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア
- 5) 審査結果発表・表彰式
2021 年 5 月 22 日(土)
@東北工業大学八木山キャンパス

表彰の内容

- 最優秀賞(1 点) 賞状、賞金(5 万円)
優秀賞(2 点) 賞状、賞金(2 万円)
佳作(7 点程度) 賞状、賞金(1 万円)

募集要項

日本造園学会ホームページ「全国大会」
<https://www.jila-zouen.org/annualmeeting>

登録

右記アドレスに必要事項(応募者氏名、所属(グループの場合は代表者氏名および構成員の氏名、全員の所属)、代表者の住所、E メールアドレス、電話番号)を記入し、「コンペ登録希望」をタイトルに入れたメールを送付すること。
問い合わせ・送付：学生デザインコンペ事務局
jilacompe@jila-zouen.org (担当：阿部伸太)

作品提出先

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1 東京農業大学造園科学科 阿部伸太(アベ シンタ) TEL: 03-5477-2664
*「日本造園学会学生公開コンペ作品在中」と朱書きすること。

審査委員会

審査委員長：
宮城俊作(東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授/
PLACEMEDIA)
審査委員：
武田史朗(立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授)
乾久美子(乾久美子建築設計事務所/横浜国立大学大学院都市
イノベーション研究院教授)
平岡善浩(宮城大学事業構想学群教授)
横橋 修(神戸大学大学院工学研究科建築学専攻准教授)
赤坂憲雄(学習院大学文学部日本語日本文学教授)

学生コンペティション企画運営委員

霜田亮祐(千葉大学)・渡部桂(東北芸術工科大学)・
向山雅之(竹中工務店)・阿部伸太(東京農業大学)

主催：公益社団法人日本造園学会 協賛：全国都市公園整備推進協議会、CLA 会員企業(予定)、JLAU(予定) 後援：仙台市(予定)

総 会

■開催日時

2021 年 5 月 22 日（土）9:30～11:00

■開催方法

造園会館 8 階緑の会議室および Web 会議方式※

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、造園会館での出席者は役員および事務職員等の関係者のみに限らせていただきます。会員の皆様におかれましては、Web 会議でのご出席または委任状のご提出をお願いいたします。Web 会議の URL やパスワード等は、出席のご回答をいただいた方にご連絡します。

■議 案

審議事項：

- | | |
|---------|----------------------------|
| 第 1 号議案 | 2020 年度事業報告について |
| 第 2 号議案 | 2020 年度決算について |
| 第 3 号議案 | 定款の改定について |
| 第 4 号議案 | 2021 年度及び 2020 年度役員の選任について |

報告事項：

- | | |
|---------|-----------------|
| 第 1 号報告 | 2021 年度事業計画について |
| 第 2 号報告 | 2021 年度収支予算について |

日本造園学会賞等の授与

■日本造園学会賞

〔研究論文部門〕

高瀬 唯：日本における緑地保全活動での市民参加促進の方針決定に関するプロセスモデルの構築

〔著作部門〕

殖生 雅章：現象のデザインー自然美が出現する庭をつくる

〔設計作品部門〕

石井 秀幸・野田 亜木子：町田薬師池公園四季彩の杜西園ウェルカムゲート

〔事業・マネジメント部門〕

山田 咲・加藤 友規・阪上 富男・太田 絢子：

文化財庭園における本質的価値の尊重と新たな価値創造型サービスー名勝無鄭奄庭園等に見られる管理・運営マネジメント

秋田 典子・一般社団法人 雄勝花物語・鎌田 秀夫：

「雄勝ローズファクトリーガーデン」を通じた津波被災低平地における持続的ランドスケープマネジメント

■日本造園学会奨励賞

[研究論文部門]

神宮 翔真：つくば市周辺における自然環境管理ガバナンスに向けた一連の研究

[技術部門]

甲野 毅：市民の意識を組み込んだ市民参加型緑地保全のための計画・技術

[設計作品部門]

坂巻 直子： G-BASE 田町

■上原敬二賞

赤坂 信

藤井 英二郎

公開シンポジウム

■ シンポジウムテーマ

Think Global. Act Local 3.11 ポスト 10 年 自然に向き合うランドスケープ

■ 日 時

2021 年 5 月 22 日（土）13：30 ～16：30

■ 内 容

COVID-19 の影響で社会の価値観や暮らし方に大きな変革のあった 2020 年。振り返れば、都市施設としての「Park」の誕生も、産業革命による都市環境の悪化に伴う伝染病の蔓延など心身の健康を損なったことから始まり、このような大きな決断は結果的には、緑豊かで魅力的な都市として現在の地域を支える資産となっている。

大会開催年である 2021 年は、東日本大震災から 10 年になる。地震大国・島国日本において、地震や津波などの自然災害を想定した暮らしと空間づくりは必要不可欠である。震災後に造園学会として開催した緊急集会のシンポジウムにおいてご講演いただいた白幡洋三郎先生は、「人のいるところでの自然の力は災害になるが、いないところでは景勝地になる」といった主旨のお話を語っていた。つまり、機能だけでの地域づくりでなく、それを風景として受け止めていくことが暮らしの糧にもなるとの示唆と理解することができる。

近年、自然災害は日本だけではなく、特に近年の地球規模での気象変動が起こる中、豪雨、豪雪、干ばつ、山林火災、海面上昇、そして地球の本来のエネルギーである地殻変動や噴火など、自然の力の大きな変化を想定した日々の暮らしの地域づくりが求められており、そして、そうした地域づくりに貢献できる職能としての造園家はますます重要になってきている。日本造園学会は、1923 年の関東大震災を機に上原敬二先生によって、街の復興に貢献する技術者の育成と研究の必要性から設立された。それから間もなく 100 年を迎えようとしている中で造園の職能も多岐にわたるようになり、ここにあらためて民産官学の連携を強めることで総合性と専門性をより一層高めていく礎の年として、この 10 年の取り組みを共有し、全体としての方向性だけでなく、それぞれの分野における道筋をみつけたすきっかけにできればと思う。

1. 開会挨拶（13:30）

柴田昌三（造園学会会長・京都大学大学院地球環境学堂教授）

2. キーノートスピーチ（基調講演）（13:35）

世界規模における社会的大変容とランドスケープアーキテクト

涌井雅之（東京都市大学環境学部 特別教授／

石巻南浜津波復興祈念公園有識者委員会委員長）

3. パネルスピーチ（話題提供）（14:25）

復興に向けた政策：新たな国立公園とロングトレイル

渡邊綱男（（一財）自然環境研究センター 上級研究員）

原子力災害と再生の景観：旧避難指示区域へのトレイルのデザイン

小沢晴司（宮城大学）

津波被害を後世につなぐ拠点整備：高田松原復興祈念公園での風景づくり

池邊このみ（千葉大学）

グリーンインフラを活かした地域の再デザイン

福岡孝則（東京農業大学）

新たな風景と産業の創出

～被災地での東北コットンプロジェクト、リボーンアート・フェスティバル

江良慶介（一般社団法人 AP バンク／株式会社 KURKKU 代表取締役社長）

4. 休憩(15:15)

5. パネルディスカッション（討論）（15:25）

コーディネーター：蓑茂寿太郎（一般財団法人公園財団 理事長）

パネラー：渡邊綱男、小沢晴司、池邊このみ、福岡孝則、江良慶介

6. 将来に向けて（16:15）

柴田昌三（造園学会会長・京都大学大学院地球環境学堂教授）

7. 閉会挨拶（16:25）

岡本一郎（造園学会東北支部長・仙台市建設局理事）

総司会：近藤夏実（仙台市建設局百年の杜推進部公園課）

■ 参加方法

- ・ Zoom を用いたライブ中継を行います。ライブ中継の参加者は大会参加申込者に限ります。
- ・ システムの制限のため、参加者は先着 1000 名です。
- ・ シンポジウムは録画配信予定です。

注）Web を用いたライブ中継は、画質・音声・通信安定性が不安定になることが予想されますこと、予めご了承ください。

■ 後援

船体市役所、仙台市教育委員会、（一社）日本造園建設業協会 東北総支部、（一社）日本造園組合連合会宮城県支部、全国 1 級造園施工管理技士の会 東北・北海道支部

エクスカーショ

2021 年度日本造園学会全国大会では、東日本大震災から 10 年が経過し、当時、この地で起こった出来事を振り返るとともに、その後の復興の軌跡と現状を視察することで、近年多発する自然災害を軽減し、暮らしの風景を育てていくことを考える見学会を 2021 年 5 月 21 日（金）に予定していましたが、感染症拡大防止のため、下記の通り変更しました。

■日 時

2021 年 5 月 21 日（金）午前～5 月 30 日（日）午後 *詳細時間未定

■内 容

今回予定していた見学先を撮影し、編集した動画「エクスカーショ見学先紹介」（予定）

大会企画展示

この企画展示では、「Think Global. Act Local 3.11 ポスト 10 年 自然に向き合うランドスケープ」のテーマの基、造園・ランドスケープ関連の企業や団体等から幅広く活動内容等について紹介していただいています。

■日 時

5 月 21 日（金）9：00 ～ 5 月 30 日（日）17：00

■場 所

<https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/プログラム/企画展示>

■出展団体（申込順）

【ポスター出展】

宮城県造園芸協同組合

国際校庭園庭連合日本支部

兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科/県立淡路景観園芸学校

一般社団法人日本造園建設業協会

【URL リンク出展】

高瀬環境緑化株式会社

東洋緑化株式会社

株式会社ドーコン

株式会社 四宮造園

一般社団法人宮城県造園建設業協会

せんだい農業園芸センター「みどりの杜」農と触れ合う交流拠点

一般社団法人北海道造園緑化建設業協会

株式会社 武田園芸

植彌加藤造園株式会社

株式会社仙北造園

むつみ造園土木株式会社

全国 1 級造園施工管理技士の会（一造会）

研究発表会

全国大会における研究発表会の形式について

学術委員会 委員長 大黒 俊哉
論文集委員会 委員長 渡辺 貴史

日本造園学会では、学会員相互の直接コミュニケーションの場である全国大会での議論の活性化のため、セッション制をとりいれております。つきましては、下記の具体的な内容をご理解いただき、発表会における議論の活性化にご協力いただきたくお願いいたします。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、研究発表会はオンライン（zoom）で実施する予定です。発表形式に関する最新の情報は学会ホームページでご確認ください。

1. セッションの形式

- ・研究の対象、方法等に関連性が認められる論文発表4件程度をひとまとめのセッションとし、それらに共通する、もしくは総括するテーマを設定しています。
- ・各セッションは90分（4題及び3題とも）とし、その中で研究論文の発表（45～60分程度）と総合討論（30～45分程度）を予定しています。
- ・各研究論文の発表は、12分発表＋3分質疑応答／題を想定しています。
- ・セッション内の時間配分（セッションのテーマ説明、各研究論文の発表・質疑応答、総合討論、まとめ等）は、座長の判断で、適宜、設定します。

2. 座長の役割

- ・担当するセッションにおいて発表される研究論文を事前に熟読し、各論文の内容について理解を深めておいてください。
- ・担当するセッションにおける研究の発表者・共著者と事前に十分なコミュニケーションをとり、セッションの進め方等について議論をしてください。
- ・セッション開始前（当日及び前日等）に打合せを行い、進行方法、発言内容について座長、発表者の意思疎通、情報の共有につとめると効果的です。
- ・学術委員会及び論文集委員会にて事前に設定しておりますセッションのテーマは、適宜、修正、変更していただいてもかまいません。
- ・必要に応じて、セッションのテーマに精通する学会員にコメンテーターとして参加を要請してもらってもかまいません。
- ・セッション内の時間配分（セッションのテーマ説明、各研究論文の発表・質疑応答、総合討論、まとめ等）は、適宜、設定してください。
- ・研究発表の順番については、セッションのテーマや討論のすすめ方等に鑑み、発表者と協議のうえ任意に組み替えてもらってもかまいません。
- ・担当するセッションの冒頭において、セッションの主旨、進め方について簡潔に説明をしてください。
- ・セッションのスムーズな進行とともに、議論の活性化につとめ、セッションの終了時にとりまとめと総括を行ってください。
- ・個々の論文の発表と質疑応答を充実させる方が有意義であると考えられる場合には、個々の研究発表、質疑応答時間を充実させてください。但し、その場合にあっては、セッションの終了時にとりまとめと総括を行ってください。

3. 発表者・共著者の役割

- ・発表者と共著者は事前に座長ならびにセッションの他の発表者と十分なコミュニケーションをとり、セッションのテーマや進め方と自身の発表内容との関連について理解を深めておいてください。
- ・発表者と共著者は、セッションにおける総合討論や質疑応答に参加してください。特に若手の研究者が発表者となる場合には、共著者の積極的な参加をお願いします。

4. 全国大会ベストペーパー賞について

- ・会員の学術研究活動を奨励するために、全国大会で優秀な論文発表を行った会員に日本造園学会全国大会ベストペーパー賞を授与しております。

- ・全国大会ベストペーパー賞は、良好なプレゼンテーションを伴った、特に優れた内容の論文を選定し、論文の第一著者を対象としています。
- ・審査は、論文集委員会が発表採用論文から選定した推薦論文リストをもとに、学術委員会・大会実行委員会等で構成するベストペーパー賞選考委員会が分野ごとに審査を行い、日本造園学会長名で表彰します。

5. セッション報告のお願い

- ・学会員へのサービス向上を目的として、座長には、学会誌（ランドスケープ研究）に 1500 字程度のセッション報告をお願いします。
- ・セッション報告の作成に際しても、セッションの参加者（発表者等）と電子メール等でコミュニケーションを図り、セッションで議論された内容や今後の課題や問題を整理し、次につながられるようにご配慮ください。
- ・書式、内容、原稿提出日等については、別途、案内しますが、84 巻 2 号に掲載されている昨年度のセッション報告についてもご参照ください。

■日 時

5 月 23 日（日）9:30～14:40

■研究発表会の URL

<https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/プログラム/研究発表会>

■各論文(PDF)の掲載ページ：

<https://www.jila-zouen.org/publication/11819>

■研究発表一覧

5月23日(日) 第1セッション(9:30~11:00)

【第1会場】造園空間の史的考察(座長 水内佑輔)

「旭川市、常磐公園と神楽岡公園の開設前後と変遷に関する社会文化的視点からの史的考察」

小林昭裕

「日本統治時代台湾の造園技術者・清水半平の経歴と造園活動」

栗野隆

「北海道帝国大学農学部附属植物園におけるロックガーデンの整備について」

西村公宏

「足利尊氏と足利直義における庭園利用に関する研究」

関西剛康

【第2会場】COVID-19(座長 今西純一)

「位置情報ビッグデータからみたコロナ禍における都市公園の利用実態」

嶽山洋志、若井幸夫、山本聡、薬師寺恒治、中瀬勲

「COVID-19対策下の東京における大規模公園の利用制限の実態と利用者数の変化」

竹内智子、久間亜紀

「COVID-19対応下における未就学児の母親の公園利用変化と育児ストレスとの関連」

橋村ちひろ、雨宮護、畑倫子、島田貴仁

「新型コロナウイルス感染症感染拡大時の大学生の運動・スポーツの実施と空間利用の変化」

長村佳子、福岡孝則

【第3会場】地域の動植物へのまなざし(座長 上田萌子)

「クロマツ・アカマツが生育する中山間地の緑地におけるマツ枯れとニホンリスの採食状況」

黒田貴綱、金澤朋子、安齋寛、炭山大輔

「都市の神社境内地における植樹と樹木伐採の実態及び植樹の類型」

長谷川泰洋

「造成後約20年が経過した都市内再生林におけるコナラとアラカシ実生の成長特性」

田端敬三

「舗装と街灯がガードレール・ガードパイプへのセアカゴケグモ営巣個体数に及ぼす影響」

澤畠拓夫、小坂彰、瀬古祐吾、早坂大亮

【第4会場】環境把握技術の適用(座長 村上暁信)

「TLS点群データを用いた3D樹木モデルの構築と応用」

熊崎理仁

「3次元点群データを活用した日本庭園における透かし剪定による樹木形態変化」

矢作岳、加藤顕、加藤友規、三谷徹

「移動観測によるつくば市中心地区の気温分布の把握とその変化の考察」

手塚勇太、村上暁信

【第5会場】農地と農業(座長 柴田祐)

「市民アンケートからみた親の自然体験の消失が子や孫の自然体験率に及ぼす影響」

上野裕介、安藤耕介、長谷川啓一

「農業に関する経験が農地景観への愛着や保全意識、農地の多面的機能の理解へ及ぼす影響」

林和沙、愛甲哲也

「東京都の全域市街化区域自治体を対象とした都市農業振興基本法に基づく施策の特性」

荒川いずみ、秋田典子

5月23日（日）第2セッション（11:10～12:40）

【第1会場】見出された風景と文化（座長 大平和弘）

「「神戸南京町」の形成と神戸華僑の関わり方に関する研究」

末廣拓登、伊藤弘

「名勝の指定基準対象項目としての「展望地点」の今日的意義に関する考察」

平澤毅

「池坊の立花に使用した植物にみる風景表現の変遷」

陸丹、山本清龍、中村和彦、下村彰男

【第2会場】公園のリノベーション（座長 中島敏博）

「リノベーションへの活用を見据えた都市公園台帳の調書記載内容の拡充の方向性」

橘俊光、平田富士男

「リノベーションへの活用可能性から見た公園計画設計資料の公文書としての保存状況」

平田富士男、橘俊光

「サウディング型市場調査や公募の活用実態からみた都市公園と地方創生との関係」

塩見一三男、三浦大和、小松亜紀子、金岡省吾、市村恒士

【第3会場】都市景観の変化と継承（座長 上田裕文）

「器械製糸工場の跡地利用と痕跡」

山口利光、黒田乃生

「京都市左京区山麓部の石仏の分布と石材利用」

張平星

「建築物との関わりからみる公共施設屋上緑地の残存・消滅のパターンに関する試論」

山島有喜、山本清龍、中村和彦、下村彰男

【第4会場】世界遺産と景観管理（座長 横関隆登）

「世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群」と調和した街並み景観のあり方に関する研究」

松尾薫、関郁穂、武田重昭、加我宏之

「熊野参詣道伊勢路における「活用事業」の実態からみた文化遺産の保存に資する活用方法」

伊藤文彦

「富山県五箇山旧平村における雪持林の分布と管理形態の変遷」

王聞、深町加津枝、柴田昌三

「ヴェルサイユ庭園の管理体制と日常管理の特徴について」

平岡直樹、水真洋子

【第5会場】植物を対象とした地域の環境と文化（座長 福井亘）

「タマノカンアオイの生育・開花に及ぼすアズマネザサの刈り取りの影響」

中島宏昭、久野直人、増田楓、平野友佳鈴、亀山慶晃、鈴木貢次郎

「コナラ二次林林縁のアズマネザサ群落の単年刈り取りが翌年の植物種多様性に及ぼす影響」

山田晋、三井裕樹、高岸慧、宮本太

「筆簾の蘆舌として用いられる鶴殿ヨシの持続的採取に関する伝統知の検証

柴田知己、繁富剛、包清博之

5月23日（日）第3セッション（13:10～14:40）

【第1会場】社会課題とグリーンインフラ（座長 木下剛）

「流域圏分析に基づく多摩・三浦丘陵のグリーンインフラの特質と計画論に関する研究」

石川幹子、山本遼介、横山紗英

「ニューヨーク市 BIG-U プロジェクトにみる減災デザイン実装展開の枠組み」

福岡孝則、片桐由希子、加藤禎久

「樹木葬墓地の利用実態と地域にもたらす経済効果」

上田裕文

【第2会場】公園の利活用（座長 町田怜子）

「敷島公園を事例とした収益施設（カフェ）の利用意向とイメージ分析に関する研究」

塚田伸也、森田哲夫

「京都市中京区の街区公園に対する中高年齢層の利用実態評価と健康遊具の設置意向」

福井亘、呂世嘉、高林裕

「首都圏近郊都市における街区公園と未利用地活用型オープンスペースとの利用の相違」

小玉知慶、柳井重人、中尾優花

【第3会場】生業と土地利用の変遷（座長 栗田英治）

「江戸・明治期の利根川中流域における桑園分布の変化とその要因の特徴」

栗原正博、篠沢健太

「伊豆大島における土手上的ヤブツバキ植栽及び住民の椿油用の実の採集利用」

大澤啓志、七海絵里香

「福岡県八女市・うきは市における在来茶園の面積の変遷と現況に関する基礎的研究」

佐々木一成、朝廣和夫、崔継瀟

【第4会場】二次的自然の状況（座長 濱泰一）

「時空間分析による河川堤外地の社会生態学的生産ランドスケープ特性の考察」

矢澤優理子、古谷勝則

「千葉県における古代郷比定地の大字の地形構成と土地利用に関する研究」

高橋大樹、木下剛

「茨城県における半自然草原の変遷と戦略的保全の重要性」

八巻一成

【第5会場】地域活動とその担い手（座長 丸谷耕太）

「重要文化的景観選定区域で実施されるガイドツアーの特徴と景観保全活動への影響」

松本邦彦、平野章吾、澤木昌典

「丹波地域の小学校区における地域活動の実態と小規模集落化との関係」

上甫木昭春、角野幸博、門上保雄、上田萌子

「富山大学における地域の担い手教育による地域定着意識の変化に関する研究」

尾山真、金岡省吾、塩見一三男、小松亜紀子、市村恒士

ミニフォーラム・研究推進委員会

ミニフォーラムは、Zoom や Cisco Webex meeting などを用いて開催します。特設ページの「トップページ」－「プログラム」－「ミニフォーラム」から各ミニフォーラムのページへアクセスできます。ミニフォーラムによって開催方式が異なるため、詳細は各ミニフォーラムのページでご確認ください。

<https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/プログラム/ミニフォーラム>

■ミニフォーラム 5月23日（日）15:00～18:10

- ・ 庭園がつなぐ名勝地と文化的景観
- ・ 「林苑計画書」から読み解く明治神宮一〇〇年の森
- ・ 造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～
- ・ 校庭園庭環境の自然空間創出と専門家の役割、育成
- ・ 都市公園の遊び場をインクルーシブに
- ・ 自然と共生する地域づくりと次期生物多様性国家戦略
- ・ 文化財庭園都市と自然との共生～潮入りから考える～
- ・ 日本庭園の「わざ」一石の運搬と据え付けに関する伝承造園技術の検証
- ・ 街の価値を高める街路空間と街路樹マネジメントその2

■研究推進委員会フォーラム 5月23日（日）16:40～18:10

- ・ これからの風景多様な体験や価値付けの共有【風景計画研究推進委員会】
- ・ 生きものの主体の庭（空間）づくりの理論と技術【生態工学研究推進委員会】

【ミニフォーラム 開催概要】

2021 年 5 月 23 日（日）15:00～16:30

□庭園がつなぐ名勝地と文化的景観

目 的：指定文化財である「名勝」と選定文化財としての「重要文化的景観」は、共に文化財として風景を保護する仕組みである。ただし、各々の価値評価の視点は異なる。「名勝」は、眺める行為により人々に愛でられてきた風景を守る仕組みである。一方、「重要文化的景観」は、地域固有の自然とそれに根差した生活・生業文化が醸成した風景を守る仕組みである。この両者は、互いに補完することで、文化的資産としての風景の保全・継承をより豊かなものに深化させる可能性を有している。ただし、これらの風景評価の本質的理解には、未だ多くの議論を要する状況にある。従って本フォーラムでは、名勝地と文化的景観という各々の視座による風景評価の特徴を浮き彫りにし、この両者の接点を探ることを目的とする。今回は、特に具体事例として「庭園」とそれが立地する地域を切り口に、「美」「眺め」「地域」「営み」等両者に関連の深いキーワードに留意しつつ、「名勝」と「重要文化的景観」という風景評価の本質について議論を深めていきたい。

主な参加者と役割

解説	記念物と文化的景観 平澤毅（文化庁）
話題提供者	佐々木邦博（信州大学） 一松代城下町の庭園と地域性、名勝と重要文化的景観－
話題提供者	恵谷浩子（奈良文化財研究所） 一京都中川の北山林業景観における民家の庭の地域性－
コメンテーター	小野 良平（立教大学）
コメンテーター	山口 敬太（京都大学）
座長・趣旨説明	井原 縁（奈良県立大学）

2021 年 5 月 23 日（日）15:00～16:30

□「林苑計画書」から読み解く明治神宮一〇〇年の森

目 的：2020 年に明治神宮は鎮座百年を迎えた。近代ランドスケープ発祥の地とも言われる明治神宮の森は、未来を見据えて計画されたランドスケープの実践フィールドである。100 年の節目を迎えた今、改めてその原点である当時の「林苑計画」を検証した結果を紹介するとともに、現在の造園学の視点からこの森の将来を展望する。

造園学会若手有志による「明治神宮とランドスケープ研究会」では、明治神宮の森の「構想・設計・管理」について記されている歴史資料「明治神宮御境内林苑計画」（通称「林苑計画書」）を現代仮名づかいに直し、一般の方にも読める形に翻刻した。その内容を、造営から 100 年経った現在の風景と照らし合わせながら検証した結果を紹介する。

一方、明治神宮では、進士五十八座長のもと「鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査」が行われ、現在の造園学の視点から明治神宮の森が総合的に検証されている。これまでも、造園学の中で注目され続けてきた明治神宮の森について、その重要性を再確認するとともに、多様な専門性を有する学会員たちと今後の展望を含めた活発な議論を行いたい。

主な参加者と役割

司会進行：	上田裕文（北海道大学メディア・コミュニケーション研究院 准教授）
話題提供：	進士 五十八（福井県立大学学長） 江尻晴美（樹木医事務所桔梗代表） 水内佑輔（東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林 助教）
コメンテーター：	今泉宜子（明治神宮国際神道文化研究所）
企画運営：	押田佳子（日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授） 小林邦隆（一般財団法人日本緑化センター 副主任研究員）

小堀貴子（東京大学大学院農学生命科学研究科森林科学専攻 特任研究員）
近藤真（パシフィックコンサルタンツ株式会社）
四戸秀和（愛媛大学社会連携推進機構防災情報研究センター 助教）
高橋靖一郎（株式会社LPD 技術顧問）
竹内智子（千葉大学大学院園芸学研究科 准教授）
田中伸彦（東海大学観光学部観光学科 教授）
寺田徹（東京大学大学院新領域創成科学研究科 准教授）

連携する団体：

明治神宮とランドスケープ研究会

2021年5月23日（日）15:00～16:30

□造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～

目 的：私たちは造園が好きでこの仕事に従事している。すでに造園の仕事をしている方はもちろん、これから造園の仕事に就こうと考えている方にも、造園が魅力ある仕事だと思われるようにしていきたい。

携わる仕事の内容や立場によって造園の魅力は様々であるが、何か共通するものがあるのではないか。造園に関わる様々な職種の老若男女に、それぞれの魅力や課題を紹介していただき、会場からも意見を頂きながら、多様な視点から造園の魅力を探る。

また、造園学会でも、現在、産官学のより一層の連携のもと、ランドスケープ分野の新たなフロンティアの開拓を模索しており、本ミニフォーラムにおける議論を受け、学会の果たすべき役割や方向性等を展望していくきっかけとする。

主な参加者と役割

話題提供：伝統技能の伝承や職人の育成：小林正典氏（㈱小林造園）

行政サービス業としての魅力：鈴木幸子氏（横浜市）

設計や計画に関わる造園の魅力：赤嶺太喜子氏（高野ランドスケーププランニング㈱）

学生に造園の魅力をどのように伝えているか：村上修一氏（滋賀県立大学）

コメンテーター：加藤友規（公益社団法人日本造園学会企画委員会委員長）

企画・運営：酒井一江（（一社）日本造園建設業協会 女性活躍推進部会長）〈コーディネーター〉

松戸克浩（（一社）日本造園建設業協会 地域リーダーズ総リーダー）〈責任者、司会〉

連携する団体：

（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、（公社）日本造園学会企画委員会、

（一社）日本造園建設業協会 地域リーダーズ・女性活躍推進部会

2021年5月23日（日）15:00～16:30

□校庭園庭環境の自然空間創出と専門家の役割、育成

目 的：校庭園庭はすべての子どもたちにとり、最も日常的な屋外環境であり、その環境や活動の質が問われている。日本においては、1990～2000年代にかけ、学校・園庭ビオトープや校庭芝生化等の自然空間を創出する展開が注目されつつも、多くの学校・園において未だ、運動場を中心に一般的な固定遊具、同系樹木の列植のみなど、子どもたちが屋外環境を通して、遊び、学び、生活する多様な体験の場として相応しくない環境が見られる。特に校庭園庭においては、多様な自然が子どもたちの身近な生活環境の中に存在していることにより、自然とふれあい、感じ、いのちの大切さへとつながるきっかけとなる。コロナ禍の中における心身の健康増進、癒しの側面として、また SDGs、ESD、生物多様性の視点から、環境保全、環境教育の実践に向け、教育保育環境に豊かな自然環境を設けていくことは必須と考える。そのために、子どもたちの多様な遊び、学び、生活、自然の環境を計画、創出できる専門家（参加型創生も含めた）の存在が、より求められている。

本企画においては、生態学、環境教育、保育の専門家による、学校・園環境の自然空間創生の内容や手法についての話題提供、造園、人と植物、緑地創生の視点による指定討論を通して、子どもたちが自然とのふれあいを通して学び育つ空間創出の重要性と専門家の役割、育成について検討したい。

主な参加者と役割

仙田 考（田園調布学園大学大学院）	: 企画・進行	校庭園庭環境の現状から
伊東 啓太郎（九州工業大学大学院）	: 話題提供 1	生態学の視点から
溝田 浩二（宮城教育大学）	: 話題提供 2	環境教育の視点から
木村 創（認定向山こども園）	: 話題提供 3	保育現場の視点から
山本 聡（兵庫県立大学大学院）	: 指定討論	造園・人と植物の視点から
連携する団体： 国際校庭園庭連合日本支部		

2021 年 5 月 23 日（日）15:00～16:30

□都市公園の遊び場をインクルーシブに

目 的：近年、都市公園では障がいの有無に関わらず全ての子どもが共に遊び、楽しむことのできる、インクルーシブな遊び場づくりが求められている。2020 年 3 月、東京都立砧公園「みんなのひろば」が開園後、この動きは全国各地に広がりつつある。学際的かつ多様な視点が求められるインクルーシブな場づくりに向けては、分野はもちろん産学官民の連携等、立場を越えた関わり合いが重要である。

本フォーラムでは、都市公園の遊び場をインクルーシブな場にしていくために、実際に計画・設計・整備・管理に携わった分野・立場の異なる実務者による話題提供から、どのような点に留意しながら遊び場づくりを行うべきか、意見交換することを目的とする。国内外における動向・事例報告、東京都砧公園「みんなのひろば」整備報告、整備後の管理運営に関する報告から、インクルーシブな遊び場づくりにおける留意点を整理し、提言としてまとめる。

主な参加者と役割

モデレーター：寺田光成（責任者・千葉大学大学院 園芸学研究科 博士研究員）
話題提供者 1：みんなの公園プロジェクト 柳田宏治・矢藤洋子 「国内外のインクルーシブな遊び場づくりの動向」
話題提供者 2：千葉大学大学院 園芸学部研究科 准教授（元東京都職員）竹内智子 「東京都立砧公園におけるみんなのひろば整備」
話題提供者 3：一般社団法人 TOKYO PLAY 嶋村仁志・矢野真利那 「砧公園でのインクルーシブな場づくりに向けた遊び場での活動・運営」
連携する団体： みんなの公園プロジェクト、一般社団法人 TOKYO PLAY、千葉大学大学院園芸学研究科

2021 年 5 月 23 日（日）15:00～16:30

□自然と共生する地域づくりと次期生物多様性国家戦略

目 的：愛知目標に続く 2030 年までの新たな世界目標（ポスト 2020 生物多様性枠組）が、2021 年に開催予定の生物多様性条約 COP15 で採択される。これを受け、わが国においても次期生物多様性国家戦略を策定し、今後 10 年間の取組みの方向性を示すこととなる。

造園学会全国大会では、2018 年から 2020 年にミニフォーラムを開催し、ポスト 2020 生物多様性枠組のあり方や、次期生物多様性国家戦略の役割について議論してきた。これまでのミニフォーラムでは、国際的・全国的な観点での議論を落とし込むアプローチで議論を行い、空間的・俯瞰的視点や、地域における多様な主体の参画とコーディネートといった観点の重要性が指摘された。

今回のミニフォーラムでは、生物多様性条約における 2050 年までの長期目標（ビジョン）であり、わが国の国家戦略における長期目標でもある「自然共生社会」の実現に向け、地域での取組をさらに促進するという観点から、次期生物多様性国家戦略において重要となる考え方や方法論について議論したい。

主な参加者と役割

司会進行 渡辺綱男（国連大学） （話題提供）環境省他行政機関・大学・NGO 等 ポスト 2020 生物多様性枠組と次期生物多様性国家戦略（環境省） ランドスケープアプローチと生物多様性国家戦略：柳谷牧子（国連大学）
--

都市の生物多様性と地域づくり：石川啓貴（国土交通省）
農林水産省生物多様性戦略と空間利用：三浦康和（農林水産省）
生物多様性地域戦略と地域の文化：吉田丈人（地球研・東京大学）
地域における生物多様性保全と NGO の役割：坂田昌子（IUCN-J）

（討論）話題提供者からの発表をもとに、地域における取組を促進するために、次期生物多様性国家戦略において重要となる考え方や方法論について議論する。

（総括）下村彰男（國學院大學）

連携する団体：

環境省、国土交通省、農林水産省、国連大学、IUCN-J

2021 年 5 月 23 日（日）16:40～18:10

□文化財庭園都市と自然との共生～潮入りから考える～

目 的：2 年前、庭園が牽引する都市「文化財庭園都市」を提案し、その後、東京の再開発と庭園の復元整備は大きく進んだ。しかし 2020 年から全世界で COVID-19 が感染拡大し、人々のライフスタイルや、「人が集まる」という都市そのものの機能を見直さざるを得なくなっている。一方で自然の多様な機能を活かした「グリーンインフラ」を都市に実装していく取り組みが全国的に展開されるなど、自然の機能を活かし、共生してきた日本庭園の役割が再び見直されている。東京は、海岸を埋め立てて発展してきた。その過程で作られた、潮の満ち引きを活用してつくられた潮入りの庭園は、当時の都市と海との共生方法を視覚的にあらわしているランドスケープであるといえる。

本フォーラムでは、東京臨海部の旧芝離宮恩賜庭園を例として、都市と庭園の機能のあり方を見直し、WITH コロナ時代、庭園が牽引する新しい都市と自然の共生について、産・管・学を交えて議論・意見交換することを目的とする。

主な参加者と役割

企画・運営

竹内智子（千葉大学）：趣旨説明・司会進行

話題提供

北村葉子（公益財団法人 東京都公園協会）：旧芝離宮恩賜庭園の歴史・概要

石綿優太郎・池田龍仁・大嶋千世（千葉大学園芸学部）：旧芝離宮恩賜庭園の水路や視点場の変遷

菊池正芳（公益財団法人 東京都公園協会）：竹芝地区のエリアマネジメントと水辺空間と活用

樋渡達也（武蔵野文化協会）：東京の海と潮入りの庭園・新たな「文化財庭園都市」

コメント

山田順之（鹿島建設株式会社）

平澤毅（文化庁）

総評

亀山章（東京農工大学名誉教授）

連携する団体：

公益財団法人 東京都公園協会、武蔵野文化協会、千葉大学、文化庁

2021 年 5 月 23 日（日）16:40～18:10

□日本庭園の「わざ」―石の運搬と据え付けに関する伝承造園技術の検証

目 的：世界的にもユニークな日本庭園は、土、石、水、木からできている。日本庭園を作るにあたっての技術は、1 土工・地形造成に関する技術、2 池泉・水工に関する技術、3 石の運搬・据え付けに関する技術、4 植木の繁殖・造形・植栽・整枝に関する技術、5) 庭園施設の工作・組み上げに関する技術、の 5 つに大別できると考える。特に今回のミニフォーラムでは、日本庭園の伝統的意匠のひとつである石組を取り上げることとし、石の運搬・据え付けに関する伝承造園技術を議論の対象とする。具体的には、石を組むにあたり、いかにして巨石を運搬するか、さらに石をどのように吊り上げて据え付けるのか、この方面に関する伝承技術にはどのようなものがあるかを把握することを目的とする。本フォーラムでは、伝承技術とともに、使用道具と技能者

(庭師)の使用言語についても検討対象としつつ、日本庭園の技術が有する価値の多面的視座を得るための議論を展開したい。

主な参加者と役割

寺石隆一 日本造園組合連合会 (話題提供・ディスカッション)
栗田純徳 株式会社栗田建設 (話題提供・ディスカッション)
廣瀬慶寛 日本庭園協会 (話題提供・ディスカッション)
小島裕史 京都府造園協同組合 (話題提供・ディスカッション)
大野暁彦 名古屋市立大学 (コメント・ディスカッション)
栗野隆 東京農業大学 (趣旨説明・司会・ディスカッション)

連携する団体：

日本造園組合連合会、日本造園建設業協会、日本庭園協会、京都府造園協同組合連合会、栗田建設

2021年5月23日(日) 16:40~18:10

□街の価値を高める街路空間と街路樹マネジメント その2

目 的：我が国の街路樹は、グリーンインフラや賑わいづくりなど、新しい価値が求められる状況にあります。国土交通省は、道路緑化技術基準を改正し、道路緑化のあり方について、道路交通機能の確保を前提にしつつ、緑化に求められる機能を総合的に発揮させ、街路空間や地域の価値向上に資するよう努めることを求めています。この流れを受けて、全国の様々な自治体が、市街地の活性化方策として、街路空間の活用や街路樹の適正管理を模索しています。

本ミニフォーラムでは、今回で4年連続となります。初年度の「まちの個性を活かす街路樹の計画・整備更新・管理」、2年目年度の「街路樹の新しい価値創出と評価」に続き、今年度は昨年に引き続き、街路空間の再編や多様な主体との連携による街路樹等の管理を通して街の価値を高めよう取り組み始めている事例を共有し、計画と実践の両面からこれからの街路樹マネジメントについて意見交換をします。

主な参加者と役割：

話題提供1「i-Treeによる街路樹の多面的機能の評価と情報の活用」
平林聡 (The Davey Tree Expert Company/米国農務省 Forest Service)
話題提供2「仙台市における街路空間の利活用を通じた中心市街地のにぎわい創出」
中川徳則 (仙台市建設局百年の杜推進部百年の杜推進課)
進行：福井 亘 (京都府立大学)
コーディネーター：赤澤 宏樹 (兵庫県立大学)
記録：川口将武 (大阪産業大学)

【研究推進委員会フォーラム 開催概要】

2021年5月23日(日) 16:40~18:10

□これからの風景 多様な体験や価値付けの共有

目 的：コロナ禍において、生活、人と人のコミュニケーションは大きく変わり、その結果、私達を取り巻く風景は大きく変化しました。2020年度全国大会企画フォーラム「風景の変化の兆し 身近な空間とそこへの関わり方の未来」では、With コロナで目の前にある空間とそこへの人々の関わり方の変化の兆し、それらにより新たに生成されつつある風景を捉えた、まなざしから、共時・通時的に多くの風景・風景体験が存在し、その蓄積された記録を踏まえた学術研究が多く報告された。さらに、風景計画分野で「何を(目的)」とともに「どのように(プロセス)」実現するかを重んじた計画に関わる行為を続けることの重要性が議論された。そこで、2021年度の企画フォーラムでは、変化に適応する風景計画の方法論を構築するため、人と空間及び人と人の新たな関係性の構築、あるいは将来の多様な体験や価値付けの共有を可能にする風景について議論を深める。

主な参加者と役割

発表タイトルと発表者：

「風景の新しい見方を探る－実践例の紹介」

滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 村上修一

「里山保全型のグリーンインフラの共創と共有－長野県伊那市上牧における民有林のフットパス化－」

信州大学 農学部 農学生命科学科 上原 三知

「情景と光景－コロナ禍で考える風景の価値」

大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 武田重昭

「新たな社会的パラダイムにおける風景の止揚と再獲得」

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 高山 範理

コメンテーター：

伊藤 弘	筑波大学芸術系世界遺産専攻
入江 彰昭	東京農業大学地域環境科学部
上原 三知	信州大学学術研究院農学系
上田 裕文	北海道大学観光学高等研究センター
高瀬 唯	茨城大学農学部
田中 伸彦	東海大学観光学部
寺田 徹	東京大学大学院新領域創成科学研究科
温井 亨	東北公益文科大学
古谷 勝則	千葉大学大学院園芸学研究科
松井 孝子	株式会社ブレック研究所
松島 肇	北海道大学大学院農学研究院
水内 佑輔	東京大学大学院農学生命科学研究科
山本 清龍	東京大学大学院農学生命科学研究科
渡邊 貴史	長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
小島 周作	東京農業大学大学院農学研究科
町田 怜子	東京農業大学地域環境科学部

連携する団体：

造園学会風景計画研究推進委員会

2021 年 5 月 23 日（日）16:40～18:10

□生きものの主体の庭（空間）づくりの理論と技術

目 的：自然災害への対応や良質な環境の再配置に向けて、緑の空間や自然生態的な機能を社会基盤あるいは社会共通資本として捉えて社会的に整備していく機運が生じている。そこにおいては、造園分野の職能を活かす可能性が数多く秘められている一方、土木・建築や都市計画、生態学といった周辺関連分野からのアプローチも多く認められるのも事実である。そこで改めて我々造園学でしか扱えない職能を確認し、その職能を軸に関連分野と切磋しつつ協働していく姿が望まれる。生態工学研究推進委員会では、その職能の本質は具体としての緑・生態的な空間をフィジカルに造れる技術であると考えているが、言ってみればそれは今日の時代に求められる「健全な生物多様性と共存する空間づくりの作法」となる。この「空間づくりの作法」には、理論的裏付けと実践的技術が整理されなければならないのだろう。

そこで本ミニフォーラムでは、現代版『生きものの作庭記』を構想し、参加者と議論を深めていきたい。

主な参加者と役割

事例報告：

板垣範彦（生態工学研究推進委員会／いきものランドスケープ）

八色宏昌（生態工学研究推進委員会／景域計画株式会社）

『生きものの作庭記』の構想について：

大澤啓志（生態工学研究推進委員会／日本大学）

まとめ：

日置佳之（生態工学研究推進委員会／鳥取大学）

連携する団体：

公益社団法人日本造園学会生態工学研究推進委員会

2021 年度日本造園学会全国大会における CPD について

日本造園学会企画委員会

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2021 年度日本造園学会全国大会プログラムは、Web にて開催することになりました。これまでの全国大会の CPD 単位はプログラム会場にて受講や閲覧が必要でしたが、今回、CPD 申請者の不利益が生じないよう、最大限に考慮した結果、全国大会プログラムに対し従来通りの CPD 単位数が取得できるようにしました。

1. 参加（受講や閲覧）の場合

登録方法

別紙「造園 CPD 2021 年度日本造園学会全国大会受講・閲覧 参加証明書」（学会ホームページ <https://www.jila-zouen.org/annualmeeting/12597> から word ファイルのダウンロード可）を使用して、参加したプログラムにチェック (☑) し、合計単位数を記入の上（最大 18.5 単位）、CPD 申請時の登録の際に、参加費の領収書とともに添付してください。

この参加証明書にて登録できるのは、教育形態番号 110（造園 CPD 認定プログラム「講習会等」の受講）、120（同「展示・フェア等」の閲覧・視察）です。

なお、建設系 CPD 構成団体会員で CPD 単位を取得されたい方は「造園 CPD 2021 年度日本造園学会全国大会受講・閲覧 参加証明書」をご記入の上、cpd-office@jila-zouen.org までお送りください。確認後、参加証明書を発行いたします。

※補注 ミニフォーラムと各委員会フォーラム（認定プログラム No21-0052 から No21-0062 まで）は合計 **2 件**までしか単位の登録ができません。

2. 発表した場合

従来通り自己登録となりますので、自己登録画面に必要な事項を記入してください。

3. CPD 単位数

日付、催し（CPD 認定プログラム）、単位数、認定番号については、下記の一覧表をご覧ください。

■参加（受講や閲覧）の場合

日付	催し（造園 CPD 認定プログラム）	単位数	認定番号
21 日	学生公開デザインコンペ二次審査	3.5	21-0048
22 日	日本造園学会賞受賞者講演会	1.5	21-0049
	シンポジウム	3.0	21-0050
23 日	研究発表会	4.5	21-0051
	ミニフォーラム 1 庭園がつなぐ名勝地と文化的景観	1.5	21-0052
	ミニフォーラム 2 「林苑計画書」から読み解く明治神宮一〇〇年の森	1.5	21-0053
	ミニフォーラム 3 造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～	1.5	21-0054
	ミニフォーラム 4 校庭園庭環境の自然空間創出と専門家の役割、育成	1.5	21-0055
	ミニフォーラム 5 都市公園の遊び場をインクルーシブに	1.5	21-0056
	ミニフォーラム 6 自然と共生する地域づくりと次期生物多様性国家戦略	1.5	21-0057
	ミニフォーラム 7 文化財庭園都市と自然との共生～潮入りから考える～	1.5	21-0058
	ミニフォーラム 8 日本庭園の「わざ」―石の運搬と据え付けに関する伝承造園技術の検証	1.5	21-0059
	ミニフォーラム 9 街の価値を高める街路空間と街路樹マネジメントその 2	1.5	21-0060
	ミニフォーラム 10 これからの風景多様な体験や価値付けの共有【風景計画研究推進委員会】	1.5	21-0061
	ミニフォーラム 11 生きものの主体の庭（空間）づくりの理論と技術【生態工学研究推進委員会】	1.5	21-0062
21～30 日	ポスターセッション	1.0	21-0063
	企画展示	1.0	21-0064
	エクスカーション見学先紹介ムービー	1.0	21-0065
	合計（最大 18.5 単位まで）		

■ 発表した場合

催し等	対象となる発表等	単位数	教育形態番号
コンペ関係	新規作品の制作および出展・応募	10（代表者）	250
		5（連名各人）	251
	コンクール等での受賞（応募するもの） CPD 協議会団体、学術団体、公的団体主催・大賞	40（代表者）	505
		20（連名各人）	506
	委員会参加	審査会の時間×2 （審査委員長）	440
		審査会の時間×1 （審査員）	445
シンポジウム関係	講演者、講師等 ※コーディネーター、座長を含む	講演の時間×5	470
	シンポジウムの講演集等の原稿を作成した場合	10（筆頭者）	220
		5（連名各人）	221
フォーラム関係	講演者、講師等 ※コーディネーター、座長を含む	講演の時間×5	470
	シンポジウムの講演集等の原稿を作成した場合	10（筆頭者）	220
		5（連名各人）	221
全国大会企画展示	ポスター発表	4（筆頭者・代表者）	230
		2（連名者）	231
ポスターセッション	ポスター発表 ※ただし、既発表（技術報告集）は対象外	4（筆頭者・代表者）	230
		2（連名者）	231
学術研究発表会関係	学術研究発表会での口頭発表	※発表自体は対象外 （論文に対しての CPD 単位数を既に 取得しているため）	
	座長	座長担当時間×5	470
	ランドスケープ研究に掲載された論文	40（筆頭著者）	215
		10（連名著者各人）	216
	学会誌ランドスケープ研究への投稿論文の査読（論文の編集委員も含む）	1 編につき 10	460

■造園 CPD 2021 年日本造園学会度全国大会受講・閲覧 参加証明書

記入日 年 月 日

造園 CPD 2021 年度日本造園学会全国大会受講・閲覧 参加証明書

氏 名	CPD 会員番号

日付	催し(造園 CPD 認定プログラム)	単位	☒
21 日	学生公開デザインコンペ二次審査	3.5	☐
22 日	日本造園学会賞受賞者講演会	1.5	☐
	シンポジウム	3.0	☐
23 日	研究発表会	4.5	☐
	ミニフォーラム／研究推進委員会フォーラム(2件まで)	ミニフォーラム1庭園がつなぐ名勝地と文化的景観	1.5 ☐
		ミニフォーラム2「林苑計画書」から読み解く明治神宮一〇〇年の森	1.5 ☐
		ミニフォーラム3造園の魅力～私たちはなぜ造園を選ぶのか～	1.5 ☐
		ミニフォーラム4校庭園環境の自然空間創出と専門家の役割、育成	1.5 ☐
		ミニフォーラム5都市公園の遊び場をインクルーシブに	1.5 ☐
		ミニフォーラム6自然と共生する地域づくりと次期生物多様性国家戦略	1.5 ☐
		ミニフォーラム7文化財庭園都市と自然との共生～潮入りから考える～	1.5 ☐
		ミニフォーラム8日本庭園の「わざ」―石の運搬と据え付けに関する伝承造園技術の検証	1.5 ☐
		ミニフォーラム9街の価値を高める街路空間と街路樹マネジメントその2	1.5 ☐
		ミニフォーラム 10 これからの風景多様な体験や価値付けの共有【風景計画研究推進委員会】	1.5 ☐
		ミニフォーラム 11 生きものの主体の庭(空間)づくりの理論と技術【生態工学研究推進委員会】	1.5 ☐
21～30 日	ポスターセッション	1.0	☐
	企画展示	1.0	☐
	エクスカーション見学先紹介ムービー	1.0	☐
	合計(最大 18.5 単位まで)		

【参加費 領収書 添付】

【申請者の方へ】ホームページ(造園 CPD 会員マイページ)にて自己登録をしないと単位登録がされません。また、添付資料としてこのファイルを添付してください。ミニフォーラムと研究推進委員会フォーラム(認定プログラム No21-0052 から No21-0062 まで)は2件までしか単位の登録ができません。

ポスターセッション

2021 年度日本造園学会全国大会ポスターセッション 発表要旨集

今年の Web 大会では、特設ページにポスターを掲載、コメント機能を用いて質問や意見を受け付けます。

■ 日 時

2021 年 5 月 21 日（金）～30 日（日）

■ポスター発表一覧

<https://jila2021.sakura.ne.jp/sendai/プログラム/ポスターセッション>

A 造園学原論および造園史

『松濤園拝観記事文』にみる明治 32 年の松濤園の様相に関する研究

関西剛康（南九州大学大学院園芸学・食品科学研究科）・大森麻里（北九州市役所）

本研究では、明治 43 年に大改修された『松濤園』の以前の庭園様相について、新発見した明治 32 年に柳河高等小学校補習科生徒 11 名が見学した際の感想文が纏められた『松濤園拝観記事文』を基に解明した。研究の結果、月や雪の景を眺める利用目的が明確な小亭や、庭園中央には三柱神社の祠などの存在が新たに判明した。

ル・ノートルのフランス式庭園における空間構成の特徴について

平岡直樹（南九州大学環境園芸学部）

ル・ノートルが関与した 12 庭園を取り上げ、主軸線の位置、城館と主軸線、主軸線対称、副軸線、運河と軸線、地形、消失点等を整理し、空間構成の特徴を考察した。その結果、ル・ノートルが自然の地形や既存の構成を大きく改変することなく技術的手法によって視覚的に整って見える演出を好んでいたことが明らかになった。

内閣総理大臣官舎庭園に見る楠岡悌二の庭園観について

西村公宏（茨城県水戸土木事務所）・西村育恵（日本大学生物資源科学部）

東京市麹町区永田町所在の内閣総理大臣官舎庭園は、大蔵省営繕管財局技手楠岡悌二の設計、監督により、昭和 4(1929)年 3 月に竣工している。本発表では、楠岡が庭石及び樹木の形や配置を重視し、建築と調和した庭園の整備を目指したこと、そして、優秀な施工者と以心伝心で現場を進めることにより、美的な造園空間の創造を図ったこと等を指摘した。

『築山庭造伝前編』が引用する漢詩の「古人栖震亭苔日」及び「山水氣象体志」の出典について

劉銘（東京大学農学生命科学研究科）・山本清龍・中村和彦

『築山庭造伝（前編）』では理想的自然を「神仙気を含たる好山水」と、「古人栖震亭苔日」を引用して説明したが、その出典が明らかでない。この詩は中国南宋の道士・白玉蟾が著した『栖霞』で、いままでの写本・印字では「霞」を「震」に間違えた。「山水氣象体志の事」では宋の詩人・戴復古の『昭武太守王子文日與李賈嚴羽共觀前輩』の内容を使ったが、その出典も明記されていない。

満濃池の風景認識の特徴とその変化

井原縁（奈良県立大学地域創造学部）・信里芳紀（香川県立ミュージアム学芸課）・加納裕之（まんのう町教育委員会 生涯学習課）

約 1300 年前に築かれた広大な農業用ため池「満濃池」は、古来しばしば文芸作品や美術作品の題材とされてきた。これらの作品に内包されている満濃池という場所に対する人々の価値認識を抽出・整理し、その特徴と変化を浮き彫りにする。また、その価値認識のもとで注目されてきた満濃池の風景の特徴と変化について、併せて明らかにする。

B 造園材料・施工および管理

中国の江南園林の築山に使われる太湖石の産地の推定

梁潔（中国東南大学建築学院景観学系）・張平星（東京農業大学地域環境科学部）

太湖石の築山を鑑賞するのは、中国の江南園林の重要な特徴である。明・清の時代では、太湖石本来の産地・西山（太湖の中島）の資源が枯渇し、南京・句容・鎮江・宜興・巢湖等でその代替品が採掘された。本研究は、異なる採石場跡と築山から太湖石を採取し、薄片観察・XRD 分析・帯磁率測定等の手法を用いて産地の推定を試みた。

都市街路花壇への自生植物の導入手法の検討

宮内泰之（恵泉女学園大学人間社会学部）・岩本陽児（和光大学現代人間学部）・丸山美夏（恵泉女学園大学園芸教育室）・君塚亜紀

近年の園芸界の自然回帰の潮流を参考に、地域の自生植物の域外保存も展望した都市街路花壇への導入を企図し、基礎データ収集目的の栽培実験を行った。実験用花壇には自生植物、それらに近縁の栽培種、園芸品種を混植し、経過を観察した。その結果、クサボタン、ツリガネニンジン等の数種について利用価値の高さを認めた。

津波被災地における海浜エコトーンの復元を目指した防潮堤の砂丘化

松島肇（北海道大学大学院農学研究院）・鐘向梅・

鈴木玲（北の里浜 花のかけはしネットワーク）・平吹喜彦（東北学院大学）・

岡浩平（広島工業大学）・木村浩二（雪印種苗株式会社）・藤彰矩（琉球大学）・

橋本喜次・大越陽

津波災害後に海浜上に建設された防潮堤は防災上の効果が期待される一方、海と陸の生態系の移行帯である海浜エコトーンの断絶が懸念される。そこで、防潮堤法面を砂丘化することでエコトーンの復元を試みた。その結果、防潮堤法面を砂で覆うことで植生回復を促進できることが示され、砂の供給・定着が重要な要因であった。

点群データに対するフラクタル解析およびVQMによる景観把握に関する研究

館川龍希（東京農業大学大学院地域環境科学研究科）・國井洋一

本研究では地上レーザスキャナを用いて計測された造園空間を対象に、点群データを用いて景観把握を行う。景観把握における客観的指標としては、フラクタル解析および Visual and Ecological Environmental Quality Model(VQM)を用いる。これにより、各構成要素の領域や奥行きなどの情報から、景観の総合的な特徴を捉えた定量化を目指すこととした。

日照シミュレーションを用いたケヤキの健全生育に必要な日射量の検討

槌尾健（株式会社竹中工務店）・藤原邦彦・鈴木康平

建築外構の植栽計画時に、植物の健全生育に必要な光量が得られるかどうかを検討することは重要であるが、これまでは定量的な評価が難しく設計者の経験に基づいて最終判断される事例が多かった。本発表ではケヤキが健全に生育するための必要日射量について、日照シミュレーションを用いて定量評価を試みた結果を報告する。

C 造園計画（庭園計画、公園計画、風景計画）

農村地域の景観計画とグリーン・ツーリズムの整合性の現状に関する研究

伊藤裕紀（茨城大学大学院農学研究科）・高瀬唯（茨城大学農学部）

農村地域の活性化を図るグリーン・ツーリズム（GT）では、持続的で広域的な推進が不可欠である。その為には、農村景観の保全方針を示した景観計画の策定が重要であるが、各地域が策定した景観計画と GT の整合性は不明である。そこで、本研究では、自治体による景観計画と GT との整合性の現状を明らかにすることを目的とした。

中国伝統都市の空間変遷に関する研究—平遥古城を例として

許凱欣（筑波大学大学院世界遺産専攻）・伊藤弘（筑波大学芸術系）

中国漢民族傑出な伝統都市の一例として世界遺産に登録された平遥古城はよく評価されている。本研究は平遥古城を対象地として、平遥古城の特徴への分析を通して、文化核心の晋商文化に着目して、元来「礼」を造営思想にした伝統的な都市平遥古城はどのように晋商文化の影響で都市空間の変わりを明確にした。

環状交差点中央島の造園設計に関する調査

太田広（土木研究所）・榎本碧・増澤諭香・松田泰明

環状交差点（ラウンドアバウト）は、1980 年代以降は、欧米諸国で広く普及している。我が国では、2014 年より環状交差点の運用が開始され、2020 年 3 月末時点で、101 交差点が運用されている。本報告では、我が国及び欧州主要国における環状交差点中央島の緑化事例を収集、整理し、緑化の有効性等を考察した。

Repeat Photography を利用した国立公園での 自然景観・文化的景観の経年変化

愛甲哲也（北海道大学大学院農学研究院）・蓑内ゆい

現在と過去の景観の変化を明らかにする Repeat Photography により、大雪山、支笏洞爺国立公園の過去に撮影された古写真と、同じ場所、構図で撮影した写真を比較した。また、変化の有無と印象について評価を行った。自然物の変化は少なく、人工物により景観の変化が見られた。自然物の多さや観光利用は肯定的に、植物の繁茂等の視点場の変化は否定的にとらえられた。

北京・翠芳園 緑を取り戻した公園

胡文逸（琉球大学大学院農学研究科）・赤嶺光

翠芳園は、北京市西側の伝統的家屋が建ち並ぶエリアに隣接し、1900年頃に整備された公園だが、2000年に取り壊されしばらく放置された。その後、周辺に集合住宅等が建設され、再び公園としての整備が必要となった。近隣の老若男女が集い、憩い、スポーツを楽しむ緑あふれる市民の公園として再整備のためデザインした。

東日本大震災からの復興に係る公園緑地の整備・利活用に関する調査研究

大石智弘（国土交通省 国土技術政策総合研究所）・守谷修（スポーツ庁）・舟久保敏（国土交通省）

東日本大震災に係る復興事業により整備された都市公園は400箇所以上（うち新規が300箇所以上）あるが、そのうち代表的な30の整備事例における防災・減災のための機能（多重防御、避難地・避難路、防災拠点、防災教育・メモリアル）を中心に、工夫や配慮事項等について調査研究を行った。

専門分野外の学生を対象としたランドスケープ教育における産学連携型PBL実施手法の検討

高瀬唯（茨城大学農学部）・山道あい（戸田建設株式会社）

ランドスケープが核ではない教育課程では、ランドスケープ教育に使用できるリソースが限られており、実践的な産学連携型の課題解決型授業(PBL)が有用と考えられる。そこで、茨城県常総市のPPP事業による開発予定地をベースにした授業を実践例に、専門分野外の学生向けのランドスケープ教育での産学連携型PBL実施手法を検討した。

リノベーションで蘇る東の杜 ～納まり+コストカット=クロスオーバー～

武田和博（(株)武田園芸）・松戸克浩（(株)新松戸造園）・清水謙治（(一社)日本造園建設業協会）

限られた予算と短い期間の中で、今まで経験し磨いてきた技術や知識を活かし、東の杜を東根市の新しい顔に生まれ変わらせるプロジェクトをご紹介。予算の関係による度重なる設計変更や台風豪雨による被害、さらに人生初めての冬期施工という事で先の見えない工事をどう施工したか。

D 都市および地方計画

郊外戸建て住宅地における開発年代ごとの庭木の特徴：千葉県柏市の事例

板鼻大樹（東京大学大学院新領域創成科学研究科）・寺田徹

開発時期の異なる4つの住宅地（1970年代?2000年代）を対象とし、開発年代ごとの庭木の特徴を解明し、緑地としての量や質の差異を考察する。データは現地調査、Google street view 閲覧、空中写真の実態視により取得する。本ポスター発表では、庭木の樹種、本数、樹高について、敷地面積や建蔽率と合わせて分析、考察した結果を紹介する。

ICT技術をもちいた屋上菜園の遠隔管理の可能性

宇多峻佑（東京大学大学院新領域創成科学研究科）・寺田徹・栗田英治（農研機構農村工学研究部門）

近年、ICT技術により遠隔操作可能な菜園向けロボット Farmbot が開発された。本研究では Farmbot を屋上菜園に設置し、利用者の来園が難しい場合や入園不可能な時間帯にも遠隔で操作を行い、より適切な農作物栽培を実現することを目指す。ポスターでは、Farmbot 実装についての課題と Farmbot 有無による比較栽培実験の途中経過を報告する。

大都市圏郊外都市における農地の消失・残存履歴とその要因

秋武優梨菜（東京大学新領域創成科学研究科）・寺田徹

自治体の緑地計画において都市農地の保全指針を示すようになってきたが、指針のベースになる農地の消失・残存の履歴を都市スケールで追った先行研究はない。本研究では東京都町田市の市街化区域を対象地とし、農地の消失・残存履歴を解明しその要因を分析する。ポスター発表では主に消失・残存履歴について説明する。

都市における緑農環境保全・活用の計画・実現手法に関する調査研究

金甫炫（国土交通省 国土技術政策総合研究所）・大石智弘

近年、人口減少・少子高齢社会を迎え、空き地・空き家問題等も発生する中、市街地の緑を活かしながら、コンパクトで魅力的な都市空間の形成、多様なライフスタイルを実現できるまちづくりを進めることが課題となっている。本研究は、これらの課題の解決に地方公共団体の担当者が取組やすい緑農環境の計画・実現手法について調査研究を行った。

A study on the holistic utilization of geological, nature, cultural heritages in Muroto UNESCO Global Geopark and its backgrounds

藤井郁乃（筑波大学大学院人間総合科学研究科世界文化遺産学専攻）・
伊藤弘（筑波大学芸術系）

This study aimed to analyze the connection between the Geopark management in Muroto UNESCO Global Geopark and the holistic utilization of regional geological, nature, cultural heritages by using GIS. And it also elucidated the international/national movements related to Geopark programs until the Muroto Geopark was approved to be an UNESCO Global Geopark by literature reviews, in order to examine the connection with the current holistic utilization of the regional heritages in Muroto UNESCO Global Geopark.

グリーンインフラの戦略的計画の要件に関する考察

木下剛（千葉大学大学院園芸学研究院）・田畑貞寿（東洋大学人間科学総合研究所）

緑の基本計画や都市計画マスタープラン、生物多様性地域戦略、さらには流域水害対策計画等にグリーンインフラを位置づけようとする動きが活発化している。こうした戦略的計画にグリーンインフラを位置づける際に求められる要件について、グリーンインフラの概念、評価の手法、実施の考え方等の観点から予備的に検討する。

公的空間における樹木による「囲繞感」に関する考察

三友奈々（日本大学）・齋藤桃（西武造園株式会社）

本研究では、東京都千代田区にある公的空間のうち、公共空間として大手町川端緑道、民有地として一号館広場を取り上げる。樹木によって囲まれたベンチの「囲繞感」を現地で計測するとともに、そこに座る利用者の滞在時間を調査し、空間と滞在時間の関係性について把握する。

首都圏近郊都市における長期未利用地の分布特性に関する研究

柄澤健人（千葉大学園芸学部）・小玉知慶（千葉大学大学院園芸学研究科）・
柳井重人（千葉大学大学院園芸学研究院）

近年、首都圏近郊都市では人口減少に伴う未利用地の増加とその有効活用が課題となっている。本研究では、それらのパブリックオープンスペースとしての利用可能性を検討するため、2001年から2018年の地図情報を基に、GISを用いて長期間存在する未利用地の位置・面積等の分布の特性を明らかにした。

小平市における学校給食の地場産農産物の活用実態

古永あゆみ（千葉大園芸学部）・Zheng Hua（千葉大学大学院園芸学部研究科）・秋田典子

近年、地域支援型農業の必要性が注目されている。この実現には、地域住民の都市農業への関心が重要になる。そこで、本研究では学校給食への地場産野菜の利用に積極的な取り組みがなされている小平市を事例に、地場産農作物の活用実態を明らかにし、子供たちへの食育や地域コミュニティとの連携の可能性について検討を行う。

都市農業と地域の歴史・文化の関係性に関する研究

眞駟来美（千葉大学園芸学部）・Zheng Hua（千葉大学大学院園芸学研究院）・秋田典子

都市農地の多くは昔から農家により代々引き継がれてきたものであり、地域の歴史・文化・景観を継承する貴重な存在であると考えられる。現在、農地と住宅が混在しており、都市農地から地域の歴史文化を紐解くことは容易ではない。本研究では、都市農地と社寺の関係性に着目し、都市農業がどのように地域の歴史・文化の継承に貢献してきたかを明らかにする。

地場産野菜の新しい流通形態に関する研究

小林晴香（千葉大学園芸学部）・福田昌代（千葉大学大学院園芸学研究院）・秋田典子

都市農業の振興においては地産地消の推進が最も有益な手段の一つである。そのためには近年多様化する消費者のライフスタイルに合わせた流通形態の検討が必要である。本研究では、町田市における地場産野菜の供給及び購入を円滑にする取組を事例に、農産物の消費拡大や、それらを通じた新たな価値向上の可能性を検討する。

都市農家による畑先販売の実態に関する研究

上原奈桜（千葉大学園芸学部）・荒川いづみ（千葉大学大学院園芸学研究院）・秋田典子

都市農業においては、直売所等を利用した消費者への直接販売が主であり、都市住民への安全で新鮮な食の供給に貢献している。本研究では、小平市において直接販売の中でも農家が敷地内で販売する畑先販売に着目し、導入経緯や目的、運営実態を把握することで、畑先販売の意義や課題を明らかにする。

千葉県南房総の古代郷比定地大字における台風及び豪雨災害の状況とその強靱性に関する巡検

石川里桜（千葉大学大学院園芸学研究科）・近藤義・山路依梨菜・木下剛

本調査では、2019年の台風及び豪雨災害が大きかったと推測される千葉県南房総地域の10箇所の古代郷比定地を対象地とし、その被害状況や被害回避の仕方を見ることで災害に対する強靱性とその要因を探った。巡検の結果、災害を機に集落人口が減少した地域や生け垣により被害が軽減された集落など、様々な事例を確認できた。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴う子どもの遊び環境の変容 ―千葉県松戸市紙敷地区におけるケーススタディ―

松倉淳（千葉大学大学院園芸学研究科）・寺田光成・柳井重人（千葉大学大学院園芸学研究院）

当該地区は、市街地縁辺部を含み、多様な住宅地が存在する。子育て世帯も多く、遊び環境の改善が求められている。一方、新型コロナウイルス感染症が流行し、今後の検討を進めるためには、その影響を把握する必要がある。そこで、本研究では2年にわたり小学校の保護者にアンケートを行い、子どもの遊び環境の変容を把握した。

E ランドスケープ・エコロジー

日本庭園における生物相調査～アプリ「Biome」を用いた調査について～

舟尾俊範（植彌加藤造園(株) けいはんな記念公園管理事務所）・
後藤香奈（植彌加藤造園(株) 自然文化サービス部）・浅田みなみ・和田貴子・
稲本雄太（(株)BIOME）

日本庭園は多様な景色が人為的に維持される環境である。そのため、庭園の生物相は特殊かつ多様化させられる可能性がある。一方で、景観維持の観点から調査手法には配慮する必要がある。このような観点から、著者らは京都府下の日本庭園10か所を対象に生物同定アプリ「Biome」を用いて昆虫・植物相の調査を試みた。今回は手法の検討を中心に発表する。

チョウを指標とした都市公園の環境評価

稲本雄太（植彌加藤造園(株)）・浅田みなみ・舟尾俊範

けいはんな記念公園は「里の景色」をテーマとして、生物多様性と景観の両立を目指した育成管理に取り組んでいる。これらの試みの効果をチョウを用いて評価した結果、多様性指数は最大で4.16となり、環境指数は農村・人里的な環境を示した。これにより、都市公園は管理手法の工夫で生物多様性保全の拠点となることが示唆された。

栃木県における「ヤマ」の記憶と連想の空間分布特性

阿久津瞳（宇都宮大学大学院）・高橋俊守

関東平野北部に位置する栃木県には、「里山」が広く存在している。これらは栃木県在住の住民から、「ヤマ」と呼ばれてきた。本研究では、栃木県在住の住民を対象に、「ヤマ」に関する記憶や連想を聞き取り、人々が「ヤマ」に関して有する概念やその空間分布特性を可視化し、これらを決定づける要因について考察した。

山菜や木の実の利用に関する地域知の継承実態の解明：環境教育への展開に向けて

小柳知代（東京学芸大学）・松浦俊也（森林総合研究所）・古川拓哉・小山明日香

農山村の生物文化多様性は、地域ごとの自然環境と伝統的な生活、文化が深く結びついた生態学的知識（地域知）を基盤に成立している。本研究では、人口減少が進む福島県南会津郡只見町内にある3つの小学校の高学年児童とその家族、および教職員を対象にアンケート調査を実施し、世代間での地域知の保有状況の差異や、その継承を左右する要因を明らかにした。さらに、地域知の継承に向けた環境教育の展開の可能性やその課題を考察した。

棚田保全地域における野鳥の種組成およびその特徴～周辺平地水田との比較を通して～

黒田瑞希（日本大学生物資源科学部）・佐藤雄一・古川真衣・小谷幸司・
浅田大輔（NPO 法人大山千枚田保存会）・小島仁志（日本大学生物資源科学部）

千葉県鴨川市大山千枚田において野鳥保全を目的とした生態調査を行った。本調査は、農閑期（越冬期）を中心に、棚田とその周辺環境と平地水田の種組成を把握した。クラスター分析により棚田環境に特徴的な種組成があり、種多様性指数の比較から棚田に隣接する林縁環境も野鳥の生息環境として重要であることが分かった。

Assessing botanical Local Ecological Knowledge and its dynamics in a peri-urban area: A case study with a Satoyama conservation NPO

Ana Paula Schmitz Rodrigue（Graduate School of Frontier Sciences, The University of Tokyo）・
Toru Terada

Existing research shows the importance of Local Ecological Knowledge (LEK) in maintaining sustainable conservation activities. However, LEK in peri-urban areas is disappearing due to urbanization and subsequent societal change. By having a Satoyama conservation NPO in peri-urban Kashiwa City as a case, this study investigates the LEK that they are maintaining and its dynamics to discuss their role as LEK “preserver” and/or “transmitter”. The authors present the result of preliminary survey in the poster.

天然記念物の保存と活用の取り組み～指標種による管理評価に向けた検討～

下田彰子（国立科学博物館附属自然教育園）・服部睦子（東京都公園協会）・内田圭（東京大学）

国立科学博物館附属自然教育園では、将来にわたって天然記念物の価値を継承できるよう、これまで経験に基づき行われていた植生管理を可視化する取り組みを始めている。その一環で行うボランティアと協働による指標種モニタリングを用いた管理評価について、実践をふまえた報告を行う。

烏川溪谷の二次林におけるゴミムシ類群集の組成と構造

本間政人（信州大学大学院総合理工学研究科）・大窪久美子（信州大学学術研究院農学系）

ゴミムシ類は多様性が高い分類群であるが、各地のファウナ等に関する情報が乏しい。そこで烏川溪谷緑地（長野県）を調査地とし、ファウナ等の解明を目的とした。調査は6地区において2020年3月中旬～7月上旬に実施した。結果、21種209個体が得られ、植生の異なる環境間において種構成の差異が認められた。

都市内の庭園における各種の植栽管理が園内樹林地の高木および林床植生の分布・推移に及ぼす影響—東京大学本郷キャンパス育徳園を事例として

木村圭一（東京大学）・大橋陽樹・竹中優花・大黒俊哉

文化・アメニティ価値と自然・生態的価値の両立が可能な庭園管理の実現に向けた基礎的知見を得ることを目的として、武家屋敷内の庭園として造成され、現在は東京大学本郷キャンパス内の緑地として公開・管理されている育徳園を対象に、各種管理が園内樹林地の高木種および林床植生の分布や推移に及ぼす影響を検討した。

烏川溪谷のカタクリ自生地における春季の訪花昆虫に関する研究

大窪久美子（信州大学学術研究院農学系）・本間政人（信州大学大学院総合理工学研究科）・井出萌

ユリ科の多年生草本であるカタクリは他家受粉型の虫媒花であるため、健全な種子繁殖のためにはポリネーターの存在が必要となる。長野県烏川溪谷緑地のカタクリ自生地では市民による本種の保全活動が行われており、本研究の目的は、基礎的知見となる開花前後を含めた春季の訪花昆虫について明らかにすることとした。

モンゴルの若年層における薬用植物に関する知識取得に影響を及ぼす要因

浅野晴香（東京大学）・ウンダルマー・ジャムスラン（モンゴル生命科学大学）・大黒俊哉（東京大学）

モンゴルの大学生を対象に、伝統的に利用されてきた42種の薬用植物に関する知識とその入手先をアンケートにより調査し、知識の保有に影響を及ぼす要因を検討した。薬用植物に関する若年層の知識は出身地域と植物の分布環境の関係に影響を受けること、知識継承のプロセスはジェンダーの影響を受けることが示唆された。

烏川溪谷緑地における市民グループ（植物班）によるカタクリ自生の保全活動

村田實（長野県烏川溪谷緑地市民会議（植物班））・中村光子・浅川とよ子・中野好子・尾関雅章（長野県環境保全研究所）・内田利幸（長野県烏川溪谷緑地環境管理事務所）・戸紋榮（（一般）公園財団）・大窪久美子（信州大学学術研究院農学系）

長野県烏川溪谷緑地では2006年から市民グループ（植物班）によるカタクリ自生の保全活動が実施されてきた。市民による二次林のササ刈り等の里山整備に加えて、保全の科学的根拠として長期にわたるカタクリの個体群動態調査が実施されてきた。今回の発表では2006年から2014年の結果について事例紹介する。

仙台ふるさとの杜再生プロジェクトの取組みについて

岡本一郎（仙台市建設局）・佐藤修（仙台ふるさとの杜再生プロジェクト連絡会議）・和泉麻里子・神名川俊英

東日本大震災による津波で被害を受けた仙台東部地域のみどりを市民一人一人の「ふるさとの杜」として再生するプロジェクトの取組を紹介。津波で流された海岸林については、これまでの暮らしに根差した役割に加え、津波からの多重防御の役割を担う海岸防災林として市民参加の植樹や育樹により再生を図ってきた。その結果、地域の防災性を高めるだけでなく、海岸林と市民との新たなつながりが生まれてきた。

都市公園の管理で発生する剪定枝及び伐採木の市民への無償配布を通じた木質資源としての活用—松戸市「21世紀の森と広場」における実践と効果検証—

佐々木圭（千葉大学大学院園芸学研究科）・柳井重人

松戸市の総合公園「21世紀の森と広場」では、年間約60tの剪定枝及び伐採木が廃棄処分されている。本実践では、それらを木質資源として活用する方策を検討するため、市民向けに剪定枝及び伐採木の無償配布を実施した。そして、配布実績及び来訪者への用途のヒアリングに基づき、公園周辺地域における活用可能性を検討した。

F 情報処理・知覚

日光国立公園を事例としたアクティブレングジャー日記による国立公園情報発信の特徴把握

李定遠（筑波大学人間総合科学研究科世界遺産専攻）・武正憲（筑波大学芸術系）

情報化社会への移行と旅行ニーズの変化とともに、国立公園の魅力発信手段も対応を求められている。本研究は、日光国立公園を事例として、国立公園に関わる情報を発信するアクティブレングジャー日記に着目し、テキストマイニングや写真マッピングを用いて、環境省国立公園公式サイトの掲載内容と比較して、その特徴を把握することを目的とする。アクティブレングジャー日記は、四季折々の魅力や保全管理の課題などの現下情報を確認できることと、それがアーカイブされ、過去の様子を理解できるのが特徴として挙げられた。

TLS を用いた戦災イチョウに対する焼け焦げの可視化および定量化

古賀大誠（東京農業大学大学院農学研究科）・國井洋一（東京農業大学造園科学科）

東京大空襲により被災した戦災樹木は、75 年が経過した現在も当時の傷跡を残したまま生き続けている。本研究では、3D レーザスキャナの反射率を用いて戦災イチョウの焼け焦げの抽出を試みた。抽出された焼け焦げ跡からは、焼け焦げ率の算出により戦災イチョウの外部損傷を定量的に示すことを可能とした。

G 造園技術

改訂版防災公園技術ハンドブックの刊行

手代木純（公益財団法人都市緑化機構 研究部）

1995 年の阪神・淡路大震災以降、最大震度 7 を記録する激震が多発する中、被災地では公園緑地が多様に活用され、防災公園の計画論、技術論も拡大してきた。東日本大震災から 10 年、熊本地震から 5 年の節目にあたる本年 5 月、「防災公園技術ハンドブック」は 21 年ぶりに改訂発行される。この間の災害や国のガイドラインの見直しなど、改訂のポイントを紹介する。

【共催・後援・協賛団体】

大会全体

後援：仙台市、仙台市教育委員会、（公財）都市緑化機構、（一社）日本造園建設業協会、（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会、（一社）日本造園組合連合会、（一財）日本造園修景協会、全国1級造園施工管理技士の会

公開シンポジウム

後援：（一社）日本造園建設業協会 東北総支部、（一社）日本造園組合連合会宮城県支部、全国1級造園施工管理技士の会 東北・北海道支部

学生デザインコンペ

共催：全国都市公園整備促進協議会

後援：（一社）ランドスケープコンサルタンツ協会 東北支部

協賛：一般社団法人ランドスケープアーキテクト連盟（JLAU）、株式会社虹設計事務所、株式会社東京ランドスケープ研究所、西武造園株式会社、株式会社ライフ計画事務所、Ciels-Paysages

【全国大会運営委員会】

委員長：阿部 伸太（東京農業大学地域環境学部/造園学会関東支部 支部長）

副委員長：岡本 一郎（仙台市建設局/造園学会東北支部 支部長）

木下 剛（千葉大学大学院園芸学研究科/造園学会関東支部 副支部長）

幹事：高瀬 唯（茨城大学農学部）、張 平星（東京農業大学地域環境学部）

委員：伊藤 弘（筑波大学大学院人間総合科学研究科）、池口 仁（山梨県富士山科学研究所）、岡野 隆宏（環境省自然環境局）、石井 匡志（アゴラ造園株式会社）、入江 輝昭（東京農業大学地域環境科学部）、大利 泰宏（株式会社オリエンタルコンサルタント東北支社/造園学会東北支部 事務局長）、加藤 真司（株式会社建設環境研究所）、金澤 弓子（東京農業大学地域環境科学部）、川崎 鉄平（株式会社石勝エクステリア）、煙山 亜由美（国土交通省都市局公園緑地・景観課）、近藤 夏実（仙台市建設局百年の杜推進部公園課）、國井 洋一（東京農業大学地域環境科学部）、佐藤 慎士（仙台市建設局百年の杜推進部公園課）、霜田 亮祐（千葉大学大学院園芸学研究科）、白井 伸（独立行政法人都市再生機構）、不破 正仁（東北工業大学建築学部）、町田 怜子（東京農業大学地域環境科学部）、向山 雅之（株式会社竹中工務店/造園学会関東支部 副支部長）、矢部 正治（株式会社ランド）、山崎 智彦（独立行政法人都市再生機構）、渡部 桂（東北芸術工科大学デザイン工学部/造園学会東北支部 副支部長）

【企画委員会】

委員長：加藤 友規（京都芸術大学）

副委員長：奥田 直久（環境省）

幹事：金澤 弓子（東京農業大学）

委員：相田 明（岐阜県立国際園芸アカデミー）、青木 達司（文化庁）、大杉 哲哉（アーバンデザインコンサルタント）、岡野 隆宏（環境省）、菊池 佐智子（都市緑化機構）、國井 洋一（東京農業大学）、小林 聖（内山緑地建設）坂下 智宏（東京都）、四宮 繁（四宮造園）、曾根 直幸（国土交通省）、高瀬 唯（茨城大学）、美濃 伸之（兵庫県立大学/淡路景観園芸学校）、村上 修一（滋賀県立大学）、山本 聡（兵庫県立大学/淡路景観園芸学校）、横田 樹広（東京都市大学）

【学術委員会】

委員長：大黒 俊哉（東京大学）

副委員長：大久保 悟（農研機構）

幹事：小柳 知代（東京学芸大学）

委員：秋山 義典（国土交通省）、近江 慶光（千葉大学）、木下 剛（千葉大学）、高橋 輝昌（千葉大学）、嶽山 洋志（兵庫県立大学/淡路景観園芸学校）、林 まゆみ（兵庫県立大学/淡路景観園芸学校）、藤田 直子（筑波大学）、町田 玲子（東京農業大学）、村上 暁信（筑波大学）、村上 修一（滋賀県立大学）、八色 宏昌（景域計画株式会社）

